

講 義 要 項

早稲田大学大学暦
講 義 内 容
役付教職員一覧
クラス担任者一覧
教 員 一 覧
建物・号館案内
構 内 案 内 図

1 9 9 0

早稲田大学人間科学部

平成 2 年度 早稲田大学大学暦

項		目	期		日	
入	学	式	学 部	平成2年 4 月 2 日 (月)		
			大 学 院 学 部 専 攻 科	4 月 3 日 (火)		
前 期	授 開	業 始	学 部	4 月 3 日 (火)		十 六 週
			大 学 院 学 部 専 攻 科	4 月 4 日 (水)		
	授 業 終 了		7 月 21 日 (土)			
	夏 季 休 業	自	7 月 22 日 (日)	9 月 15 日 (土)		
至						
後 期	授 業 開 始		9 月 17 日 (月)		十 七 週	
	創 立 記 念 日		10 月 21 日 (日)			
	冬 季 休 業	自	12 月 15 日 (土)	平成 3年		
		至	1 月 7 日 (月)			
授 業 終 了			2 月 6 日 (水)			
春 季 休 業			自	2 月 7 日 (木)		
			至	3 月 31 日 (日)		
学部卒業式，専攻科修了式 および大学院学位授与式			3 月 25 日 (月)			
授 業 期 間			33 週			

目 次

講 義 内 容

一 般 教 育 科 目	教 養 演 習	1
	人 文 科 学 系	2
	社 会 科 学 系	4
	自 然 科 学 系	6
保 健 体 育 科 目		9
基 礎 教 育 科 目		11
専 門 教 育 科 目		13
(各学科共通 必修)		
専 門 教 育 科 目	人 間 基 礎 科 学 科	15
	人 間 健 康 科 学 科	26
	ス ポ ー ツ 科 学 科	43
専 門 教 育 科 目		73
(各学科共通 選択)		
役付教職員一覧		79
クラス担任者一覧		81
教 員 一 覧		85
建物・号館案内		95
構 内 案 内 図		96

一 般 教 育 科 目

教 養 演 習 (必修) 4 単位

教養演習は、大学における勉学への導入的役割を果すものと期待されており、演習参加者が勉学上の関心を主体的に充足する場であると同時に、クラスとして機能する、1年次に履習する3学科共通の科目である。

クラスは約30名編成20クラスで、3学科混成である。それぞれのクラスは入学手続後決定し、掲示する。

クラス	担 当 者	専攻分野
1	吉 村 作 治 助 教 授	考 古 学
2	寒 川 恒 夫 助 教 授	ス ポ ー ツ 人 類 学
3	三 枝 幸 夫 教 授	英 語 学
4	上 田 雅 夫 教 授	ス ポ ー ツ 心 理 学
5	神 崎 巖 教 授	ド イ ツ 文 学
6	堀 田 郷 弘 教 授	フ ラ ン ス 現 代 文 学
7	坂 野 雄 二 助 教 授	行 動 臨 床 心 理 学
8	濱 野 吉 生 教 授	ス ポ ー ツ 法 学
9	宮 内 孝 知 助 教 授	体 育 社 会 学
10	谷 川 章 雄 専 任 講 師	文 化 人 類 学
11	臼 井 恒 夫 専 任 講 師	社 会 病 理 学
12	鈴 木 晶 夫 専 任 講 師	行 動 学
13	志々田 文 明 助 教 授	体 育 学
14	石 田 敏 郎 助 教 授	人 間 工 学
15	山 内 兄 人 助 教 授	神 経 内 分 泌 学
16	根 建 金 男 専 任 講 師	行 動 学
17	永 田 晟 教 授	バ イ オ メ カ ニ ッ ク ス
18	比 企 静 雄 教 授	ス ポ ー ツ 工 学
19	青 柳 肇 専 任 講 師	動 機 心 理 学
20	佐々木 正 人 専 任 講 師	認 知 心 理 学

(人 文 科 学 系)

教 育 学 4単位

鈴 木 慎 一

教育の意味を考えるとときには幾つかの視点から多角的に教育と呼ばれる事象を解析して
みる必要がある。

人間が人間として生きる生き方はさまざまだが、今、人間が人間の生き方を創り出して
ゆく営みを、仮りに文化と名付けることにして、文化の創造と伝達という観点から『教
育』を解析することを、この講義の一つの柱としたい。

同時に、人間は動物の種の一つとして、ヒトと名付けられた種の保存について、常に、
配慮しなければならない。そのことも文化の一つの形態になっているが、その基礎となる
動物としてのヒトの諸事実に即して、『教育』の意味を検討してみよう。講義の第二の柱
がこれである。

二つの柱を座標軸とする各次元に、それぞれ独自に定位される教育の諸相を横縦に取り
上げる。

〔参考書〕：ワロン『認識過程の心理学』(大月書店) G. ベイトソン『精神と自然』(思索社)
ウィルソン『人間—約束するサル』(岩波現代選書)

宗 教 学 4単位

安 中 隆 徳

教団内部での宗教理解が、神学(仏教では宗乗学)であった。これに対して宗教学は、
諸宗教に関心を持ち、種々の宗教性の構造と可能性を理解しようとする。近代・現代に至
るにつれて、異なった文化・宗教を理解する重要性が意識されてきて、その新たなニーズ
が、宗教学という学問を生み出したのである。

確かに現代世界は、西欧近代の合理主義を、普遍的に導入している。しかしそれ故にこ
そ、諸文化の根底にある、宗教がはぐくんだ思惟(人間観・世界観)への理解が、いよいよ
必要になってきているのではないだろうか。

人間の諸行動の根底にある宗教の営みに、われわれは宗教学によって照明を当ててみた
い。

哲 学 4単位

速 川 治 郎

「哲学は何であるか」という問いに対して、その問いがまさに哲学であると答える人が
いる。それは一応答えにはなっているが、哲学の内容を十分に語ったことにはならない。
それで十分ならば、「哲学は何であるか」「哲学は何であるか」と繰り返しているなら。

ば、哲学を語ったことになる。私の答えは講義の中で述べよう。ところで哲学の中味を語る場合、必ず誰かの哲学にぶつかる。プラトン、アリストテレス、キケロ、デカルト、カント、ヘーゲル等々の哲学を基にして、われわれは語ることになるからである。哲学者を挙げないで自分ひとりで独創的なものを考えたつもりでも、たいてい哲学史上の哲学者がそれを語っている。本年度はヨーロッパ哲学の中で、現代のわれわれが関心を持つべき哲学を選んで論じてみたい。教科書は使わない。参考書として、とりあえずH・グロックナーの訳書『ヨーロッパの哲学』上、中、下（早稲田大学出版部）を挙げておく。

倫 理 学 4単位

富 永 厚

科学はものごとがどのようにして (how) そうなっているかを問うことはできても、何のために (why) を問題にすることはしないと言われる。そもそも人間が人びとの間で生れ、死ぬこと、生命、自然、社会の意味など解っているつもりで、かならずしも明らかでないことが多い。この講義では、そうした世界と人間の根本にかかわる問題ならびに社会における人間関係の問題を、主としてフランスでの論議を軸にして考えていくことにしたい。

文 学 4単位

菊 地 弘

日本近代の作品を素材として、文学のさまざまな問題を考察したい。本年は夏目漱石、有島武郎、芥川龍之介などの作品を具体的に分析しながら、表現世界と現実との関係性、当代、後代の作品との関連などにもふれてみたい。テキストはそのつど指示するので用意すること。

日 本 文 化 史 4単位

谷 川 章 雄

日本人にとって日本文化を知することは自己を認識する上で不可欠な作業である。しかし、人間が自分の文化を知ろうとすることは決して簡単なことではない。むしろ、異文化に属する人間の方がその文化を鋭く観察している場合がある。そこで、本講義では「外国人の見た日本文化」がどのようなものであったかを古代から歴史的にたどりつつ、日本文化史を外からながめてみることにする。

すなわち、日本人が日本文化を見る視点を問い直してみようというのが本講義のねらいである。

比 較 文 明 論 4単位

吉 村 作 治

文明を論ずる時まず問題になるのは文化との関係である。本講座では文明の中でも古代文明を論ずることにより、文化との対比を行いたい。古代文明は中国を中心とした東アジアの文明とエジプト、メソポタミア、ペルシア、ギリシア、ローマといった西アジアの文明がユーラシア大陸の両端に存在し、古代社会を形成していた。本年はこの二大文明圏の

交流を中心に、その周辺に及ぼした影響を考えてみたい。文明の伝播は文物、遺構等目で見ないと理解しづらい点も多いので、映像を使い講義を進めていく予定である。又西アジア文明については私の専門がエジプト文明にあるため、エジプトが中心となり、エジプトに於ける発掘等も講義の中で触れる。

映 像 論 4単位

岩 本 憲 児

写真が誕生した19世紀前半から、コンピュータ・グラフィックスの現代まで、映像メディアの変遷をながめながら、映像の特質を考えてみたい。写真・映画・テレビ・CG等、映像メディアが私たちにもたらしたものは何か？映像は20世紀の芸術や伝達のあり方をどのように変化させたのか？それは私たちの視点や思考をどのように新しくしたのか？講義の中心になるのは、映像メディアと既成芸術との関係、映画理論史上の主要な論点等であるが、視覚文化や複製文化、コミュニケーションやドキュメンタリー、映像とプロパガンダの問題等、社会的な広がりも含めたい。

教科書は使わないが、スライド・フィルム・テープ等、映像資料をできるだけたくさん使う予定。参考書は、『映画の教科書』（フィルムアート社）

（社 会 科 学 系）

法 学（憲法を含む） 4単位

奥 島 孝 康

イエーリンクは、その著『権利のための闘争』（岩波文庫）において、「法の目的は平和であり、それに達する手段は闘争である。」という有名な一句を記している。彼が、この本で真に主張したかったのは、権利と人格とは不可分の関係にあり、権利のために闘うということは自分自身の存在を主張することではなかったかと思われる。

本学部は、人間の尊厳の回復を学部設置の目的の一つとしている。本講義においても、人間というものを社会との関係で法がいかにとらえているか、法は人間をいかなるものと設定しているか、日常生活の中から具体的事例を取り上げて一緒に考えていきたい。そのような法というものの考え方を学びつつ、法とは何かを考えてみたい。

社会変動論 4単位

嵯峨座 晴 夫

社会変動とは、一般的にいて、社会の活動水準あるいは社会構造が変化することを意味している。このような変化を対象として、その変動パターン、原因、帰結などについて、社会学を中心として関連諸科学においていろいろと研究が進められてきた。例えば、社会進化論、発展段階論、近代化論などがあげられる。ここでは、まず第一に、これらの社会変動の基礎理論について概説する。

第二に、現代の主要潮流の一つである近代化について、日本社会を例にとりながら具体的な考察を試みる。さらに、この近代化がいわゆる第三世界にも波及する可能性があるかどうかについても検討する。

第三に、望ましい社会変動を意図的に引き起こすことを目的とした社会計画あるいは社会開発の意義と問題点についても論述する。

テキストとして浜口・嵯峨座編『社会学講義』早大出版部を使用する。

ヨーロッパ文化概論 4単位

蔵 持 不三也

貿易や文化面での国際協調が声高に叫ばれている今日、我が国の主要なパートナーであるヨーロッパに対する理解はなお不十分なものとどまっている。たとえば、肉食文化や合理主義といった皮相的かつ伝統的な見方である。本講ではヨーロッパ人および彼らの文化のルーツを先史時代まで遡って紹介し、さらにその今日の様相を文化人類学・民俗学的観点から追求して、旧来のヨーロッパ観を再検討したい。なお、講義ではできる限り多くのスライドやビデオを用いて受講者の理解に供したいと考えている。教科書あり。

教 育 法 4単位〔2年配当〕

今 橋 盛 勝

「教育と人権と法」のテーマで行う。学校教育は子ども・生徒が「人間として扱われながら学習・発達する」ことを保障するために存在するという基本的視点から、いじめ・体罰・校則・内申書・学校事故・スポーツ部活等の問題、紛争、裁判を検討したい。調査の方法、法社会的分析も紹介する。

とくに、多くの死亡・傷害事故を生み出している学校事故・スポーツ部活の教育法的検討をする。学校・教師の民事・刑事・行政責任についての理論と裁判例を紹介する。

九〇年代の日本では、子ども・生徒の人権が親の教育権・責任・学校関与権に連らなっていくと思われる。欧米の教育法にも触れたい。もう一つは、地域・住民の教育力、教育参加が問題になろう。社会体育・スポーツ少年団を中心に考えてみたい。

東大・京大大学院での「教育法」の講義の経験をふまえて、議論できる講義、学生諸君が考える講義にしたい。

〔教科書〕：今橋盛勝『学校教育紛争と法』（エイデル研究所）

〔参考書〕：今橋他『スポーツ部活』（草土文化）、NHK取材班・今橋『体罰』（NHK出版局）

(自然科学系)

物理学 4単位

(前期) 千葉 明 夫

物理学の後期の授業では熱力学をあつかう。よく知られているように、人類は原始の時代より火を明りとしてばかりでなく、熱源として食物を焼いたり煮たりまた体や水等を暖めるのに用いてきた。言い換えれば、古代より人類はいろいろな熱現象を利用して繁栄してきた。熱力学は熱現象を現象論的な立場で探究する科学で、そして物質内部のエネルギー状態の変化を知るには温度、熱、内部エネルギー、エントロピーなどの概念を確立する必要があった。熱力学を学ぶことにより、熱と温度の区別やエントロピーの概念が明確になり、熱力学の法則のもつ普遍性を知ることができる。

(後期) 鈴木 英 雄

通常、物理学はその習得にかなりの数学的知識と時間を要すると言われており、多くの人々に敬遠されがちである。しかし、物理学の基本法則は極めて簡潔に表現されており、しかもその数は決して多くはない。従って、物理学を短時間で習得することとは、その基本法則の内容を根本的に理解して、物理学的なものの考え方に早く慣れることである。本講では、力学（運動と力を扱う）、熱力学（熱とエントロピーを扱う）、電磁気学（電気と磁気を扱う）、光学（光を扱う）などの古典物理学の基本法則を、その歴史的形成過程に注目して根本的に理解できるように務める。また、数式も出来るだけ使わないように心掛ける。

化 学 4単位

(前期) 桜 井 英 博

(後期) 宇佐美 昭 次

人間と化学の関わり合いを中心に化学の基礎から話をする。前期は、化学の法則（原子説）、エネルギーの化学（熱力学と生体エネルギー）、環境の化学について紹介する。後期は、身のまわりの衣・食・住に関わる有機化合物を取上げ、それらの化学的性質を概説する。

【教科書】：『新化学序説』（第2版）。化学同人教科書研究会編（化学同人）。

生態系科学 4単位

大 島 康 行

地球は、環境と生物が相互に作用し、一つの系をなしている。この系、すなわち生態系について、構造と機能の両面から基本的な問題を概説する。さらに地域生態系の特徴、生態系の発展と安定性の維持の機構について理解していく。後半は生態系と人間生存にかかわる諸問題のうち、食糧、資源、環境問題等を生態系の視点から順次述べ理解を深めたい

と考えている。

講義はプリント、スライド、ビデオ等を随時使用しておこなう。参考文献、図書は講義の際、必要に応じ紹介する予定である。教科書として使用するものはない。

基礎数学 4単位

石 垣 春 夫

最近では、自然科学のみでなく、あらゆる分野で数学の考え方が必要とされている。

そこで、高校で学んだ数学Ⅰ、Ⅱを復習しながらさらに発展させ、社会科学や行動科学への応用を試みる。なるべく実際例から法則や、新しい概念を導くようにしたい。

〔教 材〕：岡大彬訓著『基礎数学』（新曜社）（社会科学、行動科学のための数学入門Ⅰ）

〔参考書〕：ポントリヤーギン著 坂本実訳『やさしい微積分』（東京図書）

生命科学論 4単位

中 村 桂 子

生命科学は新しい学問である。その特徴は、生物科学の基礎研究を進めて、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えていくことである。まず、現代生物学の主流を成す分子生物学で人間理解につながる知見がどこまで得られているかをまとめる。また、それ以外の分野でも、今どこまで人間の理解が進んでいるかをできるだけ広範な視野で捉える。そのうえで、生物学による人間理解と社会における人間観の関係を考えていきたい。

行動学 4単位

春 木 豊

下等動物から人間までを「動物」、つまり「動くもの」という。このように行動は下等動物から人間までの全ての生命体のもつ共通の性質であり、特に複雑な内容をもつ人間にとっては、その底に流れていて、人間を支えているルーツの深い現象であるといえる。

日常生活で、人間は一時といえども行動していないことはないのであるが、ほとんど意識することなしに過している。行動学は人間の行動に焦点を当て、そこから人間の姿をながめてみようとするものである。

行動学は一つの大きな体系をもつものであるが、本講においては、特に行動の生態に焦点をしぼり、特に、人間関係の行動を中心にその生態を比較行動学的にみてゆくことにする。

なお、この講義は、行動学であるが、その内容は人間科学を考えるためのものであるように進めてゆく。

人 類 学 4単位

（前期）保 志 宏

（後期）矢 野 敬 生

谷 川 章 雄

ヒトが生物の一種であることは今日疑う者も居ないが、他方で、ヒトにはヒト独特の特

徴もあるはずである。その特徴は、解剖学、生理学、生化学、遺伝学、生態学など、多くの角度から解明されてきた。人類学は、これらのヒト独特の特徴が、どのような進化の過程を経て獲得されてきたのか、何故このような特徴を持つに至ったのか、を明らかにしようとする。

半年という短い期間であるので、化石骨を手掛りとする進化過程の探究を主に紹介することとし、時間が許せば、生態学の一部についても触れたいと思っている。

受講者は下記の書を購入し、教室へ持参すること。(保志)

〔教科書〕：保志 宏『人類学図表集』(てらぺいあ)

後期は人間の文化的側面を研究する文化人類学の領域の講義を行う。すなわち、人類の文化の諸相——生活のしくみ、慣習、社会構造、宗教、価値観などについてとりあげ、その多様性の一端を明らかにすることが本講義の目的である。(矢野・谷川)

保健体育科目講義

比較体育論 2単位

古 市 英

特定国（ソ連、東ドイツ、日本、米国、中国、英国等）の社会における体育・スポーツについて、その特徴を見い出すと共に、それが置かれている社会的地位や評価に関して研究する。

また、国際社会の中での体育・スポーツについての意義や可能性、あるいはマイナス要素等をオリンピック大会を中心とした一側面と比較しながら言及する。

こうした作業を通して、スポーツや体育、または身体文化が進むべき将来の道を追求する。

教科書の使用を考えているが、詳しくは、第一回目の授業時に指示する。

コンディショニング 2単位

上 田 雅 夫

窪 田 登

体力を維持、あるいは増強しながら心身の状態を良好に保っていくことがコンディショニングである。元来、これは主としてスポーツの分野で使われてきた。だが、生活環境が著しく変った今日では、たんにスポーツ選手のみならず、一般人のためにもこの技術が活用されるべき時代となった。運動不足状態が恒常的になり、複雑な人間関係に頭を悩まして、多くの文明病を生み出している昨今だからである。

本講義は10数回行われるうちの前半を窪田が、後半を上田が担当する。前者が身体面からのアプローチを、そして後者が心理面からのアプローチを試みる予定である。

基礎教育科目

人間の諸問題（総合講座）4単位

浅井 邦二

濱口 晴彦

人間とは何かという問いかけは、古今たえることなく問われつけられてきた問いであり、この問いかけに最終的に答えることのできたものはいない。しかし、人間は永遠にとらえどころのない謎そのもののなのだろうか。謎の多い存在ではあるが、謎そのものではないと思う。

人間の諸問題は生と死、男と女、人間と環境、心と体など、人間をめぐるさまざまな問題をふくんでいるけれども、これらは人間とは何かという大状況の人間ではなく、人間のあり様を時間と空間という2つの軸の中に人間をおいて、もっと身近にひきよせ、多角的に考察する手がかりを与えている。今年度は人間の生と死という、人間の発端と終点をつなぐ過程をふくめ総合的にアプローチする。今年度は「男と女」をテーマにする。詳しい内容は講義登録のさい呈示する。

環境論（自然・人間）（総合講座）4単位

大島 康行

相馬 一郎

人間と環境のかかわりあいを総合的に考えていき、人間にとっての環境のあり方を再考し、問題意識をもってもらうことを意図している。そのため人間をとりまく自然環境と人間活動による環境の変化に関する諸問題（自然災害も含む）、人工的・社会的環境と人間の行動といった諸問題を取りあげる。そして現在あるいは近い将来人間の生存にかかわる諸問題を共に考えていきたい。5～6名の教員が分担しておこなう予定である。

バイオエシックス 4単位

木村 利人

濱 清

青木 清

近年生命への関心が高まっている。それは①自然科学の方向転換により自然科学の最前線が生命の探求に向っていること。②生命に関する解明が進むのと並行して生命の操作の技術化が急展開していること。③生命科学の進歩から自然科学的生命観の出現と、操作技術の展開により生命をどうとらえていくか、ということにある。これら三点について、生命科学の研究成果から述べる。

（青木）

現代の生物・医科学技術の急激な進歩と発展に対応して展開されてきた「バイオエシックス」の基本原理とその体系を、基本的人権及び公共政策の形成に焦点を合わせつつ講義する。

(木村)

それぞれの人が体験する病気、死、戦争などを通して、生命の意味についての問題を考えてみたい。

(濱)

情 報 処 理 (コンピュータ基礎・実習) 4 単位

石 田 敏 郎

野 嶋 栄一郎

教育内容の概略は次の通りである。

1. タイプ練習
2. 図書館情報検索システム
3. 日本語ワープロ
4. コンピュータ通信 (bitnet)
5. システム概説
6. プログラミング入門 (フローチャート)
7. 日本語 DOS
8. BASIC の文法及びプログラミング

上記のような教育実践のもとで次のような教育目標の実現を図る。

1. 身近な教育環境として存在するコンピュータに直に触れ、コンピュータとの対話能力とコンピュータに対する興味関心を育てる。
2. プログラミングという作業を通し、問題解決一般に通じるアルゴリズムを発見し、組み立てる能力を育てる。

[テキスト]: 逐次自作テキストを配布する。

人間の構造と機能 4 単位

木 村 一 郎

野 呂 影 勇

ヒトでみられる様々な生理現象について、分子から個体に至るいろいろなレベルでの構造的理解をもとに、それらのメカニズムについて概論する。主として分子～組織レベルの内容の講義を予定している。

人間の構造と機能について総合的に理解するため、および生物としてのヒトを理解するために必要な基礎生物学的な学習を目的としている。

(木村)

基礎、健康、スポーツの各学科の学生として、人間の構造と機能について必要な知識を学ぶ。前期においては、人間の構造としては、臓器レベルまでである。人間と外界の関係の基礎的知識としての観点から、機能について学ぶ。以下の様な項目について講義が行われる。人体の構成の要素・感覚・中枢神経系・骨格・筋 (疾患との関係を含む) 筋的負荷と呼吸循環機能・精神的負荷と自律神経機能、毎回配布資料を基にして講義が行われる。(野呂)

[参考書]: 『細胞の分子生物学』(B. Alberts 他著, 中村・松原監訳, 教育社)

『人体生理学 (第2版)』(A. C. Guyton 著, 内菌・入来監訳, 広川書店)

専門教育科目（各学科共通 必修）

人間発達の心理学 2単位

東 清 和

人間の発達を生涯発達という視点からアプローチしてみたい。乳幼児、児童、青年、成人そして高年者の発達事実をとりあげながら、それらを説明するための発達理論を概説する。それに加えて男性と女性の心理的差異、すなわち性差の発達心理学をとりあげ、性差心理学の視点からの生涯発達を考えてみる。到来しつつある人生80年型社会における発達課題とは何かを問題として提起したい。

人間発達の社会学 2単位

濱 口 晴 彦

人間発達の社会的側面をつぎの順序で講述する。

1. 人間科学，社会学，人間発達
2. 社会学的人間発達論
3. 人間発達論の過去と現在
4. 産業化，近代化，都市化と生活の質
5. 人間発達と集団
6. 人権思想の社会化
7. 人間発達の社会学—まとめ—

人間発達の生命科学 2単位

木 村 一 郎

ヒトの生における生殖，発生，成長，成熟，老化，死などの問題の理解の一助となるようなものとするを目的とする。

内容としては広義の動物発生生物学を基礎とし，組織や器官の形態形成などを扱いながら生命秩序の構築の基礎となる細胞の挙動について“細胞社会学”的観点から考えてみたい。

また，最近の生物工学や生殖医療等の発展の中で発生生物学も大きくその研究方法において変貌を遂げつつあるが，発生工学ともいべき分野の研究手法やその成果についても解説し，バイオ時代の基礎生物学の理解のための，あるいは生命倫理を考えるための生命科学的基礎知識の提供，ということも意図してみたい。

人間発達のスポーツ科学 2単位

永 田 晟

人間の発育発達を生涯の生理的成長や加齢現象として捉え，それにスポーツがいかに働

きかけ、いかなる影響をもつのかを講義する。そのためには、人間発達の態様を科学的に分析し、加齢と人間機能の関係を明確にしなければならない。さらにスポーツを科学的に分析し、人間とスポーツの相互関連を人間発達上から考察する必要がある。さらにスポーツの効果を客観量として提示し、人間発達上に占める位置を明確にする。そして人間発達におけるスポーツの役割と位置づけを論証する。

これらの内容を主に生理学、心理学、解剖学、社会学、物理学、人類学、老人学の立場で詳講し、“The biology of aging and sports”を中心に“Gerontology”の意味を理解させる。

〔教科書〕：『加齢のスポーツ科学』（ぎょうせい）

人間発達の行動学 2単位

春 木 豊

行動は生命、精神、社会とともに、人間を考える上での重要な側面である。他の側面と同様に行動は発達する。

行動は日常生活の中でさまざまに現象しているが、本講では、人間関係行動を取り上げ人間発達にともなって、この行動がどのような様相を示すかを考察したい。発達とともに、人間関係行動はバリエティーを増すが、親子関係、兄弟関係、仲間関係、夫婦関係、職場関係について、概観し、人間関係行動の発達の様相とその成熟について考えたい。

専 門 教 育 科 目 (人間基礎科学科 必修)

生 物 学 概 論 2単位

大 島 康 行

人間はヒトとして生物が共通して持っている生命の諸機構に支えられて生きている。従って、人間科学を学ぶためにはヒトを含めた生物科学の正しい理解と認識を持たなければならない。

この科目は生物科学の各分野に先だち、生命のしくみの基本的な諸問題について概説し、これらがいかに人間が生きる上に重要であるかを考えていく。プリント、ビデオ等を使用し、講義を進めていきたい。特定の教科書は使用しない。

比 較 形 態 学 2単位

山 内 兄 人

哺乳動物はそれぞれ特有の生活があり行動パターンをもつ。その行動は中枢神経系（脳一脊髄）で制御されている。中枢神経系の構造は基本的にはどの動物でも同じであるが、行動様式の違いなどで良く発達している部分と、退化的な部分がみられる。いろいろな動物（特にヒトとラット）の神経系の構造と機能を比較し考えていきたい。

行 動 学 概 論 2単位

春 木 豊

行動は、人間の生命、精神、及び社会性ととも、人間を考える上での重要な側面である。行動なしには、生命の維持、精神の実現、人間関係の活性化は生じ得ない。

このような行動は、意味論、生態論、構造論、機能論、制御論、発達論、検査論に分けることができるが、本講においては、特に構造論、制御論に中心をおいて述べることにする。人間科学としての行動学の理解を計りたい。

自 然 人 類 学 2単位

北 原 隆

一般教育科目「人類学」で講述したヒトの起源と進化に関する知見をふまえて、ヒト系統の主な段階に伴って現れた新しい行動を検討する。特に、直立歩行、道具製作にもとづく技術文明、食物分配を含むグループ内の相互協力、言語によるコミュニケーションという行動の出現を一般生物進化の解明に使われる進化統合理論の立場から現在人類学者がどのように考えるかを講述する。

なお、上に述べた理由で、この科目を授講する学生は、一般教育科目「人類学」を履習することが望ましい。

心理学概論 2単位

浅井 邦二

科学としての心理学がいかなるものであるかについて、正しい認識を持つことを講義の目的としたい。そのために心理学の研究における科学的態度を身につけることを基本とし、人間の行動を対象とした時、「なぜ」に迫る方法論を学ぶことにより、人間理解の学としての心理学へと一歩ずつ近づくことを期待したい。

現代心理学の基礎知識の習得のため、教科書として『現代心理学入門（本明寛他著）』実務教育出版を使用する。

なお講義の最初の時間に講義の日程、成績の評価方法などを発表する。

社会学概論 2単位

柿崎 京一

社会学の研究対象は、社会生活を営んでいる、いわば「社会の中の人間」である。すなわち多くの人びとと多面的に関係をもって行動している生活主体としての人間ということである。本講義では、この人間の社会行動を基軸として、社会的相互作用・社会関係、社会的役割と地位、社会集合と組織および社会規範と社会的エントロピーなど研究の主要な分野における社会学の理論的成果を解説し、社会の中の人間について考えてみたい。

テキスト：浜口・嵯峨座編「社会学講義」（早大出版）

社会生命科学 2単位

中村 桂子

生命科学は、生物科学の基礎研究を進め、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えることを特徴としている。具体的には技術を通しての社会への影響、科学活動の社会の中での位置づけ、生物科学が明らかにしつつある事実と自然観・生命観の関係という三点が課題となる。急速な生物科学の進歩に対応して、その社会との接点にも、次々と新しい課題が出てくる。それらをできるだけ適確に捉え、整理する。

統計学概論 2単位

嵯峨座 晴夫

全体は、統計調査論と統計解析論からなる。もちろん、統計データの解析手法の解説が中心であるが、講義の前段では、統計データの信頼性の問題について考察する。統計データの利用にあたっては、まずその作成段階における問題点を明らかにし、統計の評価を行うことが絶対に必要であるからである。

演習 I 4単位

木曜日	第1班	浅井 邦二	中村 桂子	矢野 敬生
	第2班	大島 康行	濱口 晴彦	佐々木正人
金曜日	第3班	春木 豊	臼井 恒夫	山内 兄人

第4班 吉岡 亨 青柳 肇 池岡 義孝

この演習は、人間基礎科学について総合的に考えてみるためのものである。各班とも人間科学に深くかかわりをもっている生命科学、心理・行動科学、社会科学についての専門家から成り立っている。各担当者は、専門の科学の立場から、人間を科学的にみるための方法や、人間のさまざまな側面を明らかにする。学生は教師とともにこの演習を通じて人間を総合的に理解するための科学である人間科学の特色を創造していく訓練の場としたい。

各班とも学生は40名前後とし、約20名ずつ2組に別れて、1名の担当者につき7～8回ずつ、順次3名の担当者全員について学ぶことになる。

演 習 II (人口と環境) 4単位

嵯峨座 晴 夫

人口変動が人々の社生活との関連においてもたらす諸問題、つまり人口問題は今日の世界的関心事である。この人口問題は、食糧問題、雇用問題、人口増加問題など古くして新しいいわば伝統的問題から、新たに最近立ち現れてきた過密・過疎、人口の都市集中、高齢化、環境破壊、外国人労働力、難民、中絶、人口減少などの諸問題まで広い範囲にわたっている。演習の前半では、これらの諸問題の意味と関連づけを概観する。後半では、参加者各人がテーマを設定し、具体的な事例をとりあげて報告を行う。

演 習 II (村落社会の構造と変動) 4単位

柿 崎 京 一

人間にとって基礎的な社会関係・社会集団の一つである村落(農山漁村)社会を対象とし、村落を構成する単位・要素、さらにこの諸単位・要素間の諸社会関係をとらえ、それらが一定の空間のもとで、全体として一定の秩序にもとづいて統合している実態、すなわち村落の社会構造と、その変動過程についての理解を深めることを課題とする。その場合、村落社会の構成単位・要素、諸単位・要素間の諸関係には、家族(家)や同族・親類・近隣・各種年齢集団、さらには政治・経済・宗教・教育関係など多様な展開を通例としている。

本演習では、以上の課題に即して事例的研究(モノグラフ)をとりあげて紹介(講義)すると同時に、基本的文献を選定し、輪読・討論を通じて理解を深めたい。使用する文献は本授業のはじめに指示する。

演 習 II (異文化理解と文化の理論)

矢 野 敬 生

文化人類学の人間科学への寄与のひとつは、「文化の多様性」についての認識である。そこで、この演習では、〈文化〉を中心テーマとしてとりあげ、異なる文化に生きる人々の生活様式、社会構造、観念体系を照射することによって、文化の隠された意味と構造を明らかにしたい。すなわち、異なる文化(other cultures)の理解をとおして、人類の固有財としての文化(Culture)にせまりたいと考えている。

そこで、本演習では前期は主として、異文化理解の前提として、文化人類学の基本文献の講読を行う。人類学者は異なる文化を対象として、フィールドワークをとおして、一義的には民族誌 (ethnography) を記述することによって、異文化理解の方法を探索してきた。そこで後期は特定の文化に関する民族誌を輪読するとともに、併行して各自の関心領域にもとづいた研究発表と討論を通じて異文化への理解を深めたい。

演 習 II (細胞の構造と機能) 4単位

木 村 一 郎

細胞の構造と機能に関する基礎生物学を、文献の講読・討論を通じて細胞生物学的・生理学的・生化学的観点から学習する。さらに、バイオテクノロジーを含む現代生物学における細胞生物学の現況についても具体的研究例を文献講読等を通じて学習し、併せて科学研究およびその発表などのあり方について学ぶ。

演 習 II (生物の遺伝機構) 4単位

飯 野 徹 雄

生物の遺伝機構の解明に大きく貢献した研究業績にかかわる論文を選定し、輪読討論方式により、それらの学術上の意義を理解せしめると共に、科学研究における計画の立案、遂行、発表、またそれに対する評価はいかにあるべきかを会得せしめる。

演 習 II (認知の発生理論) 4単位

佐々木 正 人

知ることの起源について、認知心理学、認知発達研究、認知科学の最近の成果を講読し検討する。平成2元年度はとくに「子どもの発達と文脈」、「知ることとからだ」といったテーマを柱にする。

いずれも形式的・抽象的と考えられがちな認識の働きを、具体的な日常生活と結びつける観点からアプローチしたい。フィールドと実験を有機的に関連づける人間研究の方向についても議論し、実践したい。

演 習 II (セルフコントロールの理論) 4単位

根 建 金 男

セルフコントロールの方法のうち、行動論的セルフコントロール、バイオフィードバック、自律訓練法、筋弛緩法など、主要なものについて説明する。なお、セルフコントロールの方法を体験的に理解できるよう、実習もできるだけ多く行いたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

演 習 II (ノンバーバル行動の理論) 4単位

鈴 木 晶 夫

人間や動物は、意識的・無意識的に行動により情報を表出し、その行動から情報を解読している。その際、ノンバーバル行動の果す役割は大きい。個々のノンバーバル行動についての研究は比較的行われているが、その割合に比べて総合的研究は少ない。そこで、文献研究を通じてこの分野での研究動向を探り、得られた知見を材料にして、実際に観察や

実験を行なう。研究論文の講読だけでなく、実習を通じてノンバーバル行動にさまざまな角度からアプローチし、その意義について考えたい。

前期には、研究論文講読の準備として、実験計画法についても学習する。独立変数、従属変数、統制などにこだわり、後に各自が実験を計画できるようになることを目指す。

演 習 II (達成動機) 4 単位

青 柳 肇

達成動機とは、目標に高い基準を設定し、独自の方法でそれをやりとげようとする動機とすることができる。ここでは、主として達成動機に関する国内外の雑誌や文献を読み、理解を深める。更に、実際に実験を行なって、達成動機に関する研究法も学ぶ。

教科書、参考書、文献については、授業でその都度指示する。

演 習 II (脳神経科学) 4 単位

濱 清

- ① 興奮伝導 (形態, 生理, 生化, 病因)
- ② 興奮の伝達 (電気および化学シナプスの構造, 細胞化学, 生化, 生理, 病因)
- ③ 脳神経系発生 (形態形成, 機能発現に関与する分子機構)
- ④ 感覚器 (構造, 受容とトランスダクションの分子機構)
- ⑤ 行動

などについての新着および関連文献の検討

専 門 教 育 科 目 (人間基礎科学科 選択)

細胞学及び実習 3 単位

木 村 一 郎

臨海実験所に合宿しての講義及び実習を中心としたものとする。合宿は後期授業終了後、春季休業開始時に集中して行う。なお、所沢キャンパスにおいても若干の講義を行う。

海産動物の生きた細胞を用いての細胞学的及び発生生物学的な観察に主眼をおき、それに関連した講義を併せて行う。極めてダイナミックな姿を我々に見せてくれる生きた細胞・胚を観察することによって、通常の学習ではややもすると“死”物学となりがちなものを、“生”物学として実感してもらうことを大きな目的としている。

具体的には、主としてウニ等の海産無脊椎動物を材料にして、配偶子細胞や受精の観察と実験、正常発生の観察、実験発生学的操作による観察、などを行う。

組織学及び実習 3 単位

山 内 兄 人

動物の身体を構成する組織は作られてしまったら永久にそのままなわけではなく絶えず新しい細胞が供給されている。その変化はホルモンや神経などいろいろな因子により影響を受ける。それらを考えながら動物（ラット、ヒト）の組織を考えていきたい。実習はラット組織標本の作成との観察。脳の凍結組織標本を作成し内部を調べる。自分の血液組織観察等である。

なお、組織学及び実習と生理学及び実習は、共通の講義および実習を行う。

生理学及び実習 3 単位

吉 岡 亨

本科目においては、生理学全般を理解する上に於て欠くことの出来ない基礎的な概念を習得せしめる事に重点を置く。そのため、講義は細胞の生命活動の基本は生体膜にあることを徹底的に理解させる。実習は自分自身の身体を実験材料として用いながら、心電図、反応速度といった生理測定と血液成分や尿の分析といった生化学的な実習を併せて行う。

遺伝学及び実習 6 単位

飯 野 徹 雄

遺伝学発展の歴史に沿って、遺伝子概念の成立、遺伝的変異の機構、遺伝情報系の実体、遺伝子発現の制御機構等の基本的知識を講述する。

実習においては、遺伝学的分析法の基本である突然変異体選抜法、遺伝形質の検定法、遺伝子のクローン化の法、遺伝子 DNA の分画法など基礎技術を習得せしめる。

脳神経科学及び実習 3単位

濱 清

生体の機能には必ずそれに対応する構造の裏付けがある。ここでは脳神経系を構成する細胞要素の詳細な構造とその機能との関連を解説する。

実習：神経組織の電子顕微鏡標本作製、写真の撮影及びその見方の指導を行う。

情報生理学及び実習 3単位

吉 岡 亨

ヒトが生命を任うするためには、摂食・生殖などの諸行動をつつがなく行わなければならない。ヒトはこのために外界の状況を観察し適切な対応を行っている。そのために体内には電気的情報（神経インパルス）と物質的情報（ホルモン）の伝達経路がすき間なく配置されている。ここでは電気的・物質的情報の伝達の機構に焦点を絞って解説すると同時に、実習を通して、それらの現象を体験的に理解させ、ヒト体内の情報伝達システムを総合的に理解させる。

生態学及び実習 3単位

大 島 康 行

ヒトも含め生物は個体として、また集団としてそれぞれの環境の中で生活し、また、その生活を通して環境を変えていく。野外の生物、生物集団は一見混沌としているようであるが、実は複雑な要因がからまりあった見事な法則性の中で秩序ある生活をしている。この生物集団の基本的諸問題について講義し、いかに見事なくみで生活が維持されているかを理解していきたい。

実習は講義と連携させ、基礎的実験をおこなう。実習は野外で一部集中して実施することもある。生態学を受講する学生は、一般教育科目「生態系科学」、専門教育科目「生物学概論」を履修しておくことが望ましい。教科書は使用しない。

生 物 工 学 2単位

飯 野 徹 雄

生物工学の基本技術である、細胞培養、細胞融合、組換え DNA、バイオリクター等の諸技術について、その成立の背景と技術的内容を通説した上で、生物工学活用の現状を、生物生産、育種、難病治療等の各種応用分野にわたって講述する。

比 較 行 動 学 2単位

青 木 清

ヒトも含めた動物の行動発現と行動の特徴について、神経生理学的方法による成果について述べる。①動物における本能行動、②学習、③行動を制御する中枢神経系、④行動の発達と脳、⑤神経生理学に基づいた本能論などを述べる。これら課題については最近の研究成果にもとづいて述べるが、本講義の目的は人間の自然科学的理解を得ることにある。

生 理 心 理 学 2単位

山 崎 勝 男

主として、動物の生理的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる行動を

従属変数としてとらえ、行動の生理学的な機序を解明しようとする学問領域を生理心理学という。行動の諸側面を中枢神経系の構造と機能とに対応づけて考察する、生理学と心理学の学際的な立場をとる。狭義には行動の神経生理学と呼んでもよいが、最近では神経科学に包括されている。ここでは脳損傷、脳刺激、薬物投与、食餌規制などの生理学的な方法を用いて、それらが動物の行動に及ぼす影響を、意識水準、学習、記憶、情動、動機づけ、条件反応、自己刺激、食餌選択などの心理学的な方法で観察した結果を紹介し、両変数を媒介する中枢過程を概説する。またこの学問領域と密接な関係を持つ精神生理学にも言及する。

行 動 理 論 2 単位

根 建 金 男

行動変容の背景となっている行動理論のうち、主要なもの、すなわち、ワトソンの行動主義、ガスリー、トールマン、ハル、スキナーの新行動主義、バンドウラの社会的学習理論、マイケンバウムの認知的行動変容などについて解説する。また、エリスの論理-情動療法、ベックの認知療法は、行動変容の枠を離れたものという見方もあるが、行動変容の現状を考える上で極めて重要なので、これらについてもとりあげる。受講者が行動変容の考え方を、日常に生かしていけるようにしたい。

〔参考書〕：佐藤方哉著『行動理論への招待』（大修館書店）

行動学研究法及び実習 3 単位

鈴 木 晶 夫

心理学研究法及び実習 3 単位

佐々木 正 人

心理学的測定法及び実習 3 単位

浅 井 邦 二

心理学的測定法は、心理学研究及び行動学研究に従事する者にとって事象の特性を数量化するのに不可欠な条件である。故に、すべての学生諸君に基本を取得して欲しい方法である。その知識を実際に生かし、心理学研究、行動学研究それぞれの実験実習を通じて、心理的、行動的側面の測定とはいかなるものかを体験してもらう。実験後はレポート提出を義務づける。実験実習での1回の欠席は、自他ともに多大な影響を及ぼすので、各自の自覚を望む。

非 言 語 行 動 論 2 単位

鈴 木 晶 夫

非言語的情報伝達手段として代表的チャネルに、表情表出、視線行動、身振り（ジェスチャー）、空間行動などがあげられる。これまでの研究から導き出された事実を中心に講義し、非言語的行動を通じて、動物や人間がどのようにして他者とコミュニケーションを形成し、維持し、発展させているのかについて考えたい。

認知発達理論 2単位

佐々木 正 人

従来の認識の発達理論にはひとつの理論的枠組みがある。そこでは認識能力を脱文脈化した記号の操作と考えている。ピアジェ、ウェルナー・カプランらの発達理論はこのようなパラダイムを代表している。講義ではこれらの理論を批判的に学習することから「場」、「文脈」、「からだ」の在る発達理論を展望したい。ワロン、ギブソン、バウアー、ヴィゴツキーらの主張について議論する。

動機づけ理論 2単位

宮 本 美沙子

人間の欲求・動機・動機づけの概念、動機づけの発達の様相、動機づけの測定法などにつき述べる。特に、内発的動機づけ、達成動機、原因認知（統制の位置、原因帰属、自己原因性）、無力感の問題について詳述する予定である。

社会学理論史 2単位

濱 口 晴 彦

現代社会学理論の形成過程を、

1. 社会学思想の形成
2. 社会学理論の特徴

の2つの観点から講述する。

社会集団論 4単位

矢 野 敬 生

社会は単なる個人の集まりではなく、ひとは互いに依存しあい、なんらかの関係をもちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえる。そこで、社会学の「集団論」のみならず、社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には、時間的歴史的展望を縦軸に、横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団、村落共同体、機能的集団に焦点をあて、現実の諸社会のもつ多様性の把握を通じて、社会集団の諸相を明らかにしたい。特に、本年度は、前期において一般的理論を展望し、後期は、演習方式（学生諸君に発表してもらう）で、ある特定社会（たとえば、「日本の家と同族」「バリ島の親族組織」など）をとりあげ、考察する予定である。

家族社会学及び実習 3単位

池 岡 義 孝

本講では、われわれの生活にとってもっとも身近かで基本的な社会集団のひとつである家族を対象にして社会調査を実施する。このことを通じて家族社会学についての理解を深め、同時に社会調査法の基本的な技法を学ぶことが本講の目的である。社会調査は現地調査によるデータ収集とデータ分析の過程から成るが、これには通常1年間の作業を必要とする。したがって、本講は前期配当科目であるが、実際の運営は通年制とする。年間の主たる作業手順は次の通りである。(1)既存の文献講読による家族社会学の学習、(2)各人の研

究テーマと作業仮説の設定、(3)調査項目の検討と調査票の作成、(4)予備調査の実施、(5)現地調査の実施(6)調査データの集計・分析および報告書の作成。ただし、希望する学生には、このうち(5)および(6)の作業を個別に行なう方法も考えている。

地域社会学及び実習 3単位

柿崎 京一

社会的存在としての人間の創造した、生活の基礎となる地域社会のうち、ここでは、農山漁村を含む村落社会を中心に考察する。つまり、村落社会の考察を通して人間を総合的、かつ実証的に理解することをねらいとする。そのためには既存の文献を通してこれまでの研究成果を学習すると共に、実習を通して実証的研究の方法について学習する。

とくに調査実習については、(1)各自がそれぞれ研究テーマを設定し、そのテーマに即して作業仮説を創出する。(2)調査項目及び調査票の作成、(3)予備調査の実施、(4)現地合宿本調査の実施（前期終了直後）、(5)調査収集資料の整理・分析及び報告書の作成（後期）について指導する。したがって本教科は〔前期〕配当であるが、社会調査の特性上、実質的には通年制をとることになる。但し、(4)以下については、希望に応じて個別指導により実施する方法をとることも考慮する。詳しくは授業のはじめに指示する。

都市社会学及び実習 3単位

臼井 恒夫

現地での調査実習および既存資料の二次的分析をおこなうことを念頭において、都市社会学に関連した研究テーマを各自の問題関心のなかから引き出したい。そのために、参加者の研究報告と討論を中心にして、具体的なテーマ設定に結びつけていく。したがって、研究テーマ、調査地、調査方法などは今のところ未定であるが、こうした集中的な作業をつうじて、文献の読解力、集計・分析・報告の能力を身につけてもらいたい。

なお、本講は前期配当課目であるが、調査実施の必要上、実質的には通年制をとることになる。予定としては、前期終了直後ないし後期の早々に現地調査を実施し、後期の授業時間で調査結果の集計・分析および報告書作成の作業を進めていく。

社会福祉論Ⅰ 2単位

児玉 幹夫

社会福祉は、「人間科学」という総合科学が、現実を活用される実践領域である。人間の生活は、身体的・精神的・社会的・文化的な諸側面が密接にからみ合って全体を成り立たせているので、問題の表面化している一側面だけを補修しても、生活全体は改善されない。近年提唱されている統合的ソーシャル・ワークは、心理学・社会学・人類学・生理学など関連諸科学を体系化し、人間生活をトータルにとらえる立場から、福祉の増進に寄与しようとする試みである。

社会福祉の思想と制度の発展と現状をあとづけながら、福祉の実践がヒューマニズムに支えられているように、福祉の研究がいかにヒューマン・サイエンスに基礎づけられているかを考えていきたい。

社会病理学 2単位

白井恒夫

社会病理学は、人間の行為、生活、社会集団に生じた障害を社会学的手法を用いて分析、検討し、その障害を取り除いて安定した社会生活を実現する方策を探究する。その意味で社会病理学は、社会学のなかでもっとも実践的志向の強い領域であるといえる。

本講では、社会病理学への理解をえるために、その形成と発展の歴史をそのときどきの社会的背景と照らしあわせながらあとづけていく。テキスト、参考文献については教場で指示する。

人口学（老年学を含む）4単位

嵯峨座晴夫

人口学（demography）は、主として、人間の集合体である人口に変動をもたらす出生、死亡、移動などの諸要因の分析と、人口と社会経済の変数との相互関係を解明することを目的としている。体系化された人口分析の方法、および応用としての人口研究の理論を紹介するとともに、社会老年学の立場から、高齢化社会における高齢者の社会的役割と扶養の問題について考察を加える。

特 論 I（現代免疫学）2単位

小野 魁

生体が自己にとって有害なものを、無用なものを適切に処理して生体の恒常性を維持する仕組みを生体防御という。その最も進化した形が脊推動物の獲得した“免疫”と呼ばれる機構であり、その特長は ①特異性、②記憶、③自己と非自己の識別、という点にある。感染防御の面からみると、一度免疫が成立すると“二度と同じ病気にかからない”ということになる。

近年の免疫学の進歩はこの機構を細胞レベル、分子レベルで理解することを可能にして来た。病気の予防、治療のための基礎としてのみならず、生物の認識機構の面からも興味を持たれるところである。

特 論 II（社会福祉調査）2単位

外木典夫

社会福祉調査は、ケース・ワークやグループ・ワークと異なり、人々の問題解決に直接たずさわる方法ではなく、社会福祉に必要な資料を提供し、事業の理論化をはかり、将来の予測をも行う役割を負う。この調査は、個人、集団、地域社会のニーズ測定や充足の度合いの検証に向けられてきた。この講義では、社会福祉調査の方法についての基本的な理解を深めるようにつとめたい。

専門教育科目（人間健康科学科 必修）

福祉援助論 2単位

岡野 静二

欧米における社会福祉の発達と、その日本への影響について考える。またそれとは別に、わが国における福祉の行動の歴史的展開を調べる。そして日本の精神的風土の中で、なにが福祉援助を、基本的に支えるものなのかを探りたい。そこで次の項目にしたがって授業をすすめることにする。

(1)欧米における福祉援助とそれを支える社会 (2)日本における福祉援助とそれを支える思想と社会 (3)今後の課題

地域福祉論 2単位

岡野 静二

現代社会における地域福祉の重要性を、説明しつつ、福祉が地域社会形成の基本的条件であることを明らかにする。そこで次の項目の順序で、講義をすすめる。地域社会とボランティア活動。地域社会と小・中学生問題。地域社会と青年問題。地域社会と高齢者問題。以上の講義には、実践的な問題や課題を、多く提出することにする。結局、地域福祉の課題として、なにができるか、どこまでできるかを、じっくり考えることがねらいである。

臨床心理学 2単位

門前 進

臨床心理学は心理学の現実への応用に重点がおかれている。

内容として大きく分けると、人格理解、心理療法ということになる。しかし、人格理解においても心理療法を基礎とした人格理解の理論や、目の前の人間の行動や、心理検査を通して理解するといった理解の仕方がある。また、心理療法においても、さまざまな人格理解を基礎にした技法が現在用いられている。さらに、心理療法の対象に関してもさまざまな人がいる。例えば、子どもから老人。また、健康的な人の悩み相談から、精神的に明らかに病気であるという人までいる。

このようにさまざまな領域が考えられるが、これらについて全般的に話していくつもりである。

人間関係論Ⅰ 2単位

安藤 喜久雄

人間関係は社会、組織、集団の構造、システムや文化、風土などによって規定される。それゆえ、日本における社会、組織、集団の構造的文化的特質をふまえながら、組織、集

団と個人との関係や人間関係について分析検討を行う予定である。

参考文献は授業中に指示する。

人間関係論Ⅱ 2単位

斉 藤 勇

人間関係の心理学的アプローチを中心に講義する。講義内容は次の通りであるが、可能な限り、実際の調査や実験も実施していく予定である。

- ・ 人間関係の認知
- ・ 人間関係と感情
- ・ 対人間の相互作用
- ・ 集団の中の人間関係
- ・ 組織の中の人間関係
- ・ 人間関係を知る研究方法

精神身体医学Ⅱ 2単位

中 村 陸 郎

精神身体医学は、心身相関の立場から、人間の罹患する疾患、特に心身症について、総合的にその病態を理解し、診療していくことをめざすものである。本講義では、(1)精神身体医学および心身症の概念 (2)心身症の発症の機制および理論 (3)心身症の診断および治療 (4)心身症の個々の疾患、特にその発症の機制や治療法などについて講述を行う。

環境心理学Ⅱ 2単位

佐 古 順 彦

レストランでの食事、図書館での学習、コンサートでの音楽鑑賞などのように、場所と行動との間には一定の対応関係がみられる。「行動場面」の理論（「生態心理学」）に関するロジャー・バーカーたちの研究について解説する。さらに、身近な行動場面の自然観察をおこない、行動場面の調査法を学習する。

運動・保健概論 2単位

宮 崎 正 己

健康についての定義は、WHOの定義にあるが、あまり現実的ではない。それよりも健康は、たくましさをもった面も存在している。このことは、身体的な面だけでなく、精神的な面についてもあてはまる。よりポジティブな健康の維持・増進をはかるためには、身体的な面については、健康を支える能力を強化することである。

本講義では、人の機能を中心として、種々なる環境条件下における生体の発現について、身体活動の知見を中心に進めていく。参考書は、授業中に指示する。

レクリエーション論 2単位

吉 村 正

レクリエーション（以下レク）の概念、レクの日米比較、レクの分類と展開、レク指導者とその指導法、レク施設と環境などについて講義する。

また、その中でもセラピューティック・レクリエーション（治療レク）とリゾートやレジャーについては、詳しく講義したい。

演 習 I（比較文化論〈民俗の象徴分析〉）4単位

蔵 持 不三也

民俗とは民衆心性のいわば総体としてあり、同時に当該社会の構造が端的に現出する場としてもある。本講では、そうした民俗の在り様やそれを取り巻くもろもろの慣行を我が国とヨーロッパに追い、彼我の人々の心性や社会構造、文化伝統といったものを比較・検証するとともに、民俗の本質についても新たな観点から迫ってみたい。また、受講生全員に課題テーマを出し、自主的な研究に基づく個人発表を行ってもらう予定。

演 習 I（コミュニティ論）4単位

岡 野 静 二

コミュニティとはなにかを、文献によって理解しそれを日本の地域社会にあてはめ、その特色を把握していく。そしてコミュニティの中で果たすボランティア活動の役割を理解していく。コミュニティセンターなど地域の施設を見学し、コミュニティの中での人間の行動をさぐる。

演 習 I（精神分析を中心とした心理療法）4単位

門 前 進

実験実習と文献講読を交互に行なっていく。心理療法には実験的な基礎が不必要であるように考えられがちであるが、科学としての基本は大切にする必要がある。

実験実習としては、基礎的な心理学実験を行なう。実験を通して実験の方法、データの取り方、データの処理の仕方、処理されたデータの見方などについて学んでいく。隔週の演習の時間に実験を行なうが、それについては毎回レポートの提出を要求する。

精神分析はフロイトによって始められたものである。人間は自分の考えることは総べて分かっているという気持ちを持っているが、気付かない意識を持っている。

文献講読としては、小此木啓吾・岩崎徹也・橋本雅雄・皆川邦直編集、『「精神分析セミナーⅢ」フロイトの治療技法論』（岩崎学術出版社）を読んでいく。

演 習 I（健康とレクリエーション）4単位

吉 村 正

本演習では、下記の3項目について学習する。

1. Therapeutic Recreation では、医師、看護婦、ケースワーカーやアレルギー患者（喘息児・アトピー性皮膚炎）たちと、サマーキャンプ、春、秋の治療レクリエーションを行う。その前後で、医師、看護婦、レク・リーダー、ケースワーカーなどから特別に講義を行ってもらい、人間の心と体の健康について学習する。（年1回病院見学も実施する）。
2. 健康・レクリエーション、スポーツ、医学に関することを学習しながら、文献講読、レジュメ作り、発表を行う。
3. 世界の各国、各地にある数多くのレクリエーションゲームの中から、いくつかのゲー

ムを選択し、それらを実際に行う。(そのゲームの前後に、救急法の一環として、テーピングの技法を学習する。)

演 習 I (環境認知と行動) 4 単位

佐 古 順 彦

- (1) 環境心理学の現状と領域の紹介
- (2) 環境認知の研究のうち、特に環境内の定位と移動のための空間情報を処理する認知構造の研究を概観する。距離・方向・ルート of 記憶、地図の利用等の「認知地図」能力を分析する課題を実行する。

演 習 I (社会開発論 <地域社会の変動と住民の諸問題>) 4 単位

店 田 廣 文

都市化や過疎化に象徴される人口の流動化は社会構造の変動を招き、様々な地域問題を惹起したとされる。本演習ではあるひとつの地域社会を対象とし、各人の報告や討論をまじえながら、人口の流動化に伴う社会構造の変動と住民の地域生活に生ずる諸問題を網羅的にとりあげ考察する。本演習では宿泊形式による社会調査実習をとりいれており、調査項目の検討から調査報告書の作成まで、一連の調査実施過程を体験することになる。なお演習参加者は社会調査法 I を受講することがのぞましい。

演 習 I (人間工学 <視覚環境と人間工学>) 4 単位

石 田 敏 郎

視覚環境の評価・改善は人間工学にとって重要なテーマの一つである。本演習では人間工学を学ぶための基礎的知識を習得し、さらに視環境の変化が人間の作業遂行に如何なる影響を及ぼすかを学ぶ事を目的とする。人間の反応時間、人体計測等、人間工学の基本的項目の実習とそのデータ解析、視野測定、照明と視力等についての演習を行う。授業は実習を主体とし、受講者の発表を中心として進める予定である。

教科書 別途指定

演 習 I (人間工学 <社会環境と人間>) 単位 4

野 呂 影 勇

社会環境の、とくに人間の働く場と生活の場を対象として、人間工学の基礎的技術の概要を演習により修得する。統計入門・身体計測の実施・ひとの寸法の違いの統計的な表し方・ひとと情報の関係(刺激と反応)・椅子の歴史といろいろな椅子・視認性の測定・人間工学デザインの評価・ビデオの撮影と編集技術の修得。

演 習 I (カウンセリングの問題) 4 単位

菅 野 純

この演習では次の2つの事を目的とする。

1. 人間健康科学に必要な基礎知識を学ぶ。
2. 心理臨床の事例をもとに、人格理論及び人間理解の方法を学ぶ。

演 習 I (教育工学 <教育研究の心理学的基礎>)

4 単位 野 嶋 栄一郎

この演習は二つの部分に分れる。

第一の部分は、健康科学科のどの分野においても基礎となる性質をもつ「測定」にかかわる題材を扱う。心理学的測定及び態度測定の理論、尺度構成、データの分析法及び統計学の基礎についても触れる。

第二の部分は、メディアを利用したカリキュラム作成の実習を行う。当面はビデオカメラの利用が主体となるが、「教える」、「学ぶ」という営みに介在する種々の要素を「視聴覚教材」の自作という経験を通し、再考するきっかけとしたい。

演 習 I (学校カウンセリングの基礎) 4 単位

小 泉 英 二

この演習では、学校カウンセリングに関する基本的・基礎的問題を考えると共に、初歩的な技法について演習することを目的とする。たとえば、カウンセリングと教育、学校カウンセリングの組織と運営上の問題、児童生徒理解の方法(カウンセリング、心理テスト、事例研究など)について、討論、ロールプレイ、ビデオ視聴などの方法を用いて学習する。また、小グループで、児童生徒に対する意識調査などを実施して結果を発表する試みも是非行いたい。

演 習 I (バイオエシックス) 4 単位

木 村 利 人

バイオエシックスの視座からの事例研究(たとえば、遺伝子治療、臓器移植、精神病、死と死の過程などの問題をめぐって)によりバイオエシックスの基礎的理解を深め、その原理を比較法文化的に検討する。ゼミ参加者の問題提起及び発表を中心に学習をすすめ、適宜AV教材の利用及びバイオエシックス関連施設の訪問等をも行う。

演 習 I (健康と運動) 4 単位

宮 崎 正 己

人の行動や活動の基本となる生理的な反応の測定・解析についておこなう。そのためには、基本的なエレクトロニクスの知識や測定装置の取り扱い等も実習を通して学んでいく。測定は、反応時間、反射応答、疲労測定などを中心に進めていく。

演 習 I (環境心理学 <社会環境>) 4 単位

相 馬 一 郎

ここでは環境の認知について、それをどのようなかたちで把握できるのかを特に社会的環境を中心にしてとりあげていく。

このため基礎的な評価・手法の学習および、それを実際におこない、結果を処理していくといった実習をおこなう。

演 習 II (比較文化論 <文化の位相>) 4 単位

蔵 持 不三也

前期では文化人類学から提起されたさまざまなキー概念を、レヴィニストロースの『野

生の思考』などに沿って分析・検討し、人間と社会との根源的な関わりを追究する。後期では現地調査を行う。そこでは社会構造（生業・労働・親縁関係・交通など）と生活構造（祝祭・物流・生死観・暦など）とが主たる対象となるが、この一連の作業によって日本文化の特徴の一端を探り、ヨーロッパの村落文化との差異、およびそうした差異を生じさせた要因といったものを比較してみたい。また、フィールド・ワークで収集した各種の資料のドキュメンテーションや、調査報告書の作成も予定されている。

演 習 II（高齢者を含む福祉援助）4単位

岡 野 静 二

高齢者問題と心身障害者の問題が、ボランティア活動の中で重要な位置をしめることはたしかである。そのために、それに関する文献をしらべ、同時に高齢者及び心身障害者のところへ出掛け、調査をすることにする。そのことによって問題点や課題が各人の中にたしかなものとして生まれたら、日本における高齢者問題と心身障害者の問題を、個人の行動と組織の力とでつまりボランティア活動として、なにができるかを考える。

演 習 II（催眠を中心とした心理療法）4単位

門 前 進

臨床実験研究の内容と、臨床実習を2本の柱として、演習を行っていく。

臨床実験としては、まず基礎実験の技法の習得、データ処理のための統計手法の習得などである。さらに、催眠現象、臨床心理現象に関係する実験論文、調査論文、書籍を各自が探してきて、それを紹介していく。これらを通して、各自の卒業研究に向けての実験計画、調査計画、文献研究計画などを組み立てていくことを目標とする。催眠的臨床心理に関係するものには、リラックス、イメージ、暗示現象、葛藤、情動に関係するものなどが含まれる。

臨床実習としては、催眠的技法、カウンセリング技法を中心として、行う。

演 習 II（健康とレクリエーション）4単位

吉 村 正

本演習では、下記の4項目について学習する。

1. Therapeutic Recreation では、医師、看護婦、ケースワーカーやアレルギー患者たちと、サマーキャンプを行い、24時間診療を試みる。春に病院見学、秋に治療レクリエーションを行う。（医療スタッフからの特別講義も予定している。）
2. Outdoor Recreation では、都会の雑踏から離れ、自然に触れ、Re-creation（再創造）活動と学習を行いながら、人間の健康やレクリエーションについて考える。
3. Recreation Education では、レク活動やレジャー活動を通して、豊かに創造力（creation）を養う学習を行う。
4. 健康やレクリエーションに関する文献の講読、レジュメ作り、発表などを行う。それらを通して、人間の健康や、レクリエーション活動や指導法を正しく理解する学習も行う。

演 習 II (発達と環境) 4 単位

山 本 多喜司

私たちを取りまく環境には、自然や建造物のような物理的環境、対人関係を中心とする社会的環境およびルールや習慣などの社会文化的環境がある。これらの環境の認知や評価は認知したり、評価したりする人の年齢や職業などによって異なるし、また、その環境に慣れているかどうかによっても異なる。人間と環境との相互交流を、主として個体発達と微視発生の発達の観点から考察する。具体的には子ども部屋、家屋の住み心地の研究、キャンパスや都市の認知地図の作成と分析、公園・町並み・自然景観の評価、アメニティの概念の分析、子どもの対人関係・人間関係の拡大過程の分析、サークルの雰囲気や学風のSD法による分析、環境差が発達に及ぼす影響の研究などをする。前期はそれぞれのテーマに該当する代表的論文を読んで討論し、科学的研究方法をマスターする。後期は各自のテーマを決め研究の計画書をつくり、調査・実験を行ない結果を論文としてまとめる。

演 習 II (社会開発論〈地域社会における住民運動〉) 4 単位 店 田 廣 文

住民運動はひと頃に比べると社会の耳目を集めるといった点では大きく後退した感はない。しかしこれは地域社会に運動の対象となりうる問題等が減少したのではなく、従来の公害などの謂わば直接的な生活妨害問題といった狭い領域からより対象が広がり運動そのものが多様化し質的变化をとげたためといえよう。本演習では社会開発に関わる住民運動を共通テーマとして取りあげるが、演習参加者各々の研究テーマを尊重しながら、それらを取り込む形で社会調査を実施することも考えている。

演 習 II (人間工学〈視覚的疲労と動作〉) 4 単位

石 田 敏 郎

オフィスオートメーション(OA)の発展に伴い、事務所では、VDT作業など、視覚情報処理作業が増大してきた。その結果、視覚的疲労や、局所筋負担などが、新たな産業疲労として、人間工学の重要な課題となっている。本演習では、この問題を中心として、疲労に関する各種の評価法及び疲労とヒューマンエラーの関係などについて実験を通して学ぶ。

演 習 II (人間工学〈計算機・産業・医療などの人間工学〉) 4 単位

野 呂 影 勇

人間工学とくに、生理情報学を基盤として、広範な技術の修得と調査・実験法を演習により修得する。前期前半は、人間工学の基礎的測定技術の概要を講義とデモで学ぶ。前期後半から後期の前半は、計算機・産業・医療・生活などで必要とする人間工学について、班に分かれて課題の解決を通じ演習を行う。後期の終わりには、合同でまとめと将来の課題について討論する。

演 習 II (人間行動と環境(医)) 4単位

黒 田 勲

人間行動評価のための各種パラメータの測定法、評価法、その意義付けについて演習する。

各種作業環境下における人間行動の各種モデルおよびその定量化、情報処理を含めたワークロードの評価、タスクの流れの解析と評価、人的信頼性の定量化と評価とその実用的適用法について演習を行なう。

演 習 II (学校カウンセリングの実際) 4単位

小 泉 英 二

この演習では、学校および教育相談の専門機関で行っているカウンセリングサービスの実際と問題について学習すると共に、主要な相談技法、たとえば、インテーク面接、カウンセリング、遊戯療法、グループカウンセリング、事例協議会などについて演習する。また、教育研究所、教育センターの相談部門や児童相談所、精神衛生センターなどを分担して訪問し、それぞれの業務の特色やサービスの差異などについて比較研究も試みたい。

演 習 II (教育工学<教育工学と教育心理学>) 4単位

野 嶋 栄一郎

「教育」というフィールドにおける人間の種々の営みを研究の対象とする。特に、教育工学、教育心理学とよばれる分野の研究を対象とする。単に「教育的事実」を明らかにするという視点だけでなく、「教育の改善」に寄与するという視点を重要視する。

教育測定、教育評価、教授法と学習の理論、学習と動機づけ理論、視聴覚メディア、学習指導の設計、コンピュータ利用の教育システムカリキュラムの理論、授業研究、教師研究と教育技術等々の内容について各人に適したテーマを選択し、個別指導を行う。ゼミは、各人の発表と討論をくり返すことにより、自分の専門領域は深く、他の分野については、他の発表者の発表内容より学ぶという形式をとる。

教科書 別途指定

演 習 II (行動療法) 4単位

坂 野 雄 二

前半は、「心理学研究」誌、「教育心理学研究」誌、「行動療法研究」誌、「Behavior Therapy」誌、「Behaviour Research and Therapy」誌等に発表された論文や症例報告の購読を中心にして、行動療法の実践について、実験臨床とケーススタディの両面から演習を行う。「行動療法Ⅰ」および「行動療法Ⅱ」において学習した基礎的事項を実際の臨床場面において応用できるよう学習を行う。後半には、臨床の基礎研究として、不安、神経症、ストレス、抑うつ、児童生徒の学習や問題行動等に関わる諸要因(人格変数、環境、対人関係等)の検討を実験もしくは調査によって行う予定である。

演 習 II (人間の機能の測定法) 4単位

宮 崎 正 己

本演習では、人間の機能をより深く理解するとともに健康への積極的なアプローチの客

観的な方法について学んでいく。具体的には、循環機能、筋・神経機能など、人間の効率に関する測定法が中心となる。お互いに検者、被検者となり、それぞれの設定されたテーマについて、実験互で、文献的研究を推し進めていく。

演習 II（環境心理学〈教育環境〉）4単位

相馬 一郎

環境心理学の対象は広範囲にわたる。ここでは比較的種々の環境状況がある教育環境を対象としてとりあげ、それに関連する問題を通して、環境と人間行動について考えていく。実験、調査などの実習を取りあげた問題に関連しておこなう。

専門教育科目（人間健康科学科 選択）

産業・職業社会学 4単位

安藤 喜久雄

産業・職業社会学の諸分野——企業組織、労働者意識、労働組合、労使関係、産業と社会、職業など——について、これまでの研究成果をふまえながら、各々問題の現状と課題について講述する。これらを通じて現代産業社会における人間の生き方を探ってみたい。

〔教科書〕：『産業と組織の社会学』（仮題）安藤喜久雄他著，学文社刊

生活構造論Ⅰ 2単位

池岡 義孝

戦後の社会政策学的な貧困研究を出発点とする生活構造研究は、その後家族社会学、都市社会学など多様な研究領域に適用され成果をあげてきた。さらに最近では、ライフスタイル研究、社会的ネットワーク研究、ライフコース研究など、生活構造論と連動する研究領域が新たに注目を集めている。本講では、生活構造論の基本的な考え方を紹介するとともに、研究の新たな展開についても取り上げ、人間の発達を生活構造の変動過程としてとらえる視点を提示したい。

また、生活構造論の理解には社会学の基本的な知識が前提となるので、その点についてもあわせて説明を加えることにする。テキストはとくに使用せず、参考文献は教場でその都度指示する。

生活構造論Ⅱ 2単位

柿崎 京一

「生活構造論Ⅰ」の講義をうけて、本講では、与えられた表題の「構造論」や「システム論」的立場にとらわれず、人間の具体的な日常経験からアプローチしてみたい。つまり、人間は、時間や空間の概念、あるいは因果の観念などをとおして、象徴的・意味的に構成した世界（現実）に生きている。ということは、人間によって認知され、解釈され、意味づけられた環境が人間にとっての世界であり、現実であるということである。したがって、人間の生活行為を、客観的、構造決定論的分析の対象とする立場ではなく、生活行為者の主観と能動性を重視する「日常生活」、「生活世界」の視点から、人間の存在、生活について考えてみることを課題としたい。

はじめに、社会学においてこうした視点の提起されてきた背景と、その主要な理論について解説し、そのあとで文献を輪読する。使用する文献は、講義のはじめに指示する。

社会運動論 2単位

濱 口 晴 彦

社会運動を社会問題解決の集合的志向としてとらえ、それらの事例をふまえながら次のような柱を立て講述する。

1. 社会運動の意識化
2. 社会運動の構造化
3. 社会運動の組織化

〔教科書〕：『社会運動の組織化』（早大出版部刊）

社会意識論 2単位

北 村 實

社会意識とは、ある特定の社会に典型的な見解、信念、理論、価値、規範などの総称であって、明確なイデオロギーの形態をとるものから、漠然とした社会的感情・気分として表象されるような社会心理まで含まれる。したがって、どの側面を取り上げるかによって、かなりの違いが生じるが、この講義では、主として道徳的価値意識に焦点をしばって論じてみたい。

社会調査法Ⅰ 2単位

池 岡 義 孝

本講は、特定の社会現象を解明するために定められたデータ収集とデータ分析の科学的方法である社会調査法の基本的な考え方と技法の修得を目的としている。取り上げる課題の主たるものは、①社会調査の目的と全体の流れ、②標本調査の考え方と方法、③質問文と調査票の作成、④調査データの解析法と統計的検定を予定しており、2コマ続きであるので前半で解説をし後半では具体的な作業をしてもらう。これらのことを通して最終的には、各人が各人の関心テーマに応じた調査計画 research proposal を作成できるようにしたい。

社会調査法Ⅱ 2単位

野 嶋 栄一郎

(1)測定の基本理論、(2)測定の信頼性と妥当性、(3)尺度構成（順序尺度、間隔尺度、比例尺度、SD法、一対比較法）、(4)態度測定法（サーストンの態度測定法、リッカートの態度測定法、ガットマンの態度測定法）、(5)標本抽出と標本調査法、(6)データ解析（重回帰分析、判別分析、因子分析、数量化理論）、(7)行動科学における理論化とモデル構成のうち、4～5個のテーマをとりあげ解説する。

使用教科書 『調査の技術』浅井晃著（日科技連）

『テストの信頼性と妥当性』カーマイン&シェラー

（水野銅司、野嶋栄一郎訳）朝倉書店

社会開発論 2単位

店 田 廣 文

社会開発は経済開発重視の政策への対抗的な概念として積極的に唱えられてきたもの

で、社会開発そのものは一般的には生活環境の整備、住宅、保健・医療・衛生や教育・文化など広義の社会の福祉水準向上や人間の能力向上を目的とするものである。この講義では社会開発の理論と実際の開発過程について、住民参加の問題や社会開発のための認識・予測・評価・計画に関わる社会指標の考え方もとり入れながら、論じていくことにしたい。

コミュニケーション論 2単位

白井恒夫

コミュニケーションといえば、通常それは思想の伝達ないし交換を意味し、あるいは思想の交換にもとづき成立する一定の社会関係を意味している。したがって社会学的立場からのアプローチでは、記号過程論よりも社会関係論としてのコミュニケーション論に比重がおかれることになる。本講では、「社会変動とコミュニケーション」というテーマを設定して、現代社会をとりまくさまざまなコミュニケーション状況に言及してみたい。

余暇論 2単位

長田攻一

残余的な意味合いを含む日本語の「余暇」の概念も、近代化、都市化、大衆化、脱工業化などと呼ばれる社会の歴史的变化とともに、仕事、家族、教育、文化、階級などとの関連の中で再規定を余儀なくされている。このような「現代社会における余暇」の問題を、超歴史的な「遊び」の概念や歴史的な「スコール」の概念、さらには新たな人間観、価値観との関連に注目しながら、現代人および現代社会の意味付与の観点から考察する。

教育心理学Ⅱ 2単位

野嶋栄一郎

従来教育心理学は発達心理学が主流であった。しかし、最近における研究のウェイトは現実に営まれている、「教え」、「学ぶ」過程にうつりつつある。ここでは、できるだけ新しい教育心理学的成果を念頭におきながら、しかし、教育研究の基礎としての心理学の紹介を行う。

〔テキスト〕：東洋編「教育の心理学的基礎」朝倉書店

環境心理学Ⅰ 2単位

相馬一郎

環境と人間の係りあいを中心として述べる。ここでは、環境心理学の基礎的なことを、まずとりあげる。

環境の認知の仕方、環境心理学の考え方、認知と行動などが主なものである。

環境は大別して物理的・自然的環境と社会的環境があるが、その中での人間行動がどうなのか、といったことからみていくことになる。

造形心理学 2単位

相馬一郎

人間は周囲から情報をとり入れ、判断・評価をし行動しているといつてよからう。造形

心理学では、特に視覚的な側面に重点をおき、物のみえ方・感じ方・評価といったことを取りあげる。

対象をどうみるか、どう評価するかということはデザインの問題とも密接に関連する。

ここではこれらの問題にも関連づけていくつもりである。

組織心理学 2単位

松本 芳之

組織心理学とは、産業心理学の中で、特に集団や社会体系に強調をおいたものである。こうした理解が必要であるのは、組織に属する人々の様態が、結局、組織のあり方に依存するからである。しかし、組織心理学の目的は、個人の理解にとどまるものではない。組織活動を営む中で、独自の問題が生じる。これらの問題の理解こそ、組織心理学の目的とするところなのである。組織についてのさまざまな理論や研究方法は、こうした困難を扱う中で生みだされたものである。そこで、本講義では、それらの問題を振り返りながら、組織に対するいくつかの捉え方を検討するとともに、現在の我々にとっての問題点を考えて行きたい。

テキストは使用しない。参考図書については、講義の中で紹介し、また、資料は適宜配布することとする。

人間行動と環境(医)Ⅰ 2単位

黒田 勲

人間が置かれた生活環境について、異常環境下における人間行動から逆に地上環境での行動に与える基本的原理を考えてみる。

酸素および圧力についての地球史的観点から生物行動の推移について検討する。空間および時間環境については、リズム、時差、単調の問題、温度、湿度の特殊作業環境、重力および加速度に関する生体反応、光、騒音、衝撃、振動等の物理環境下での人間行動、放射能、一般の中毒物質についての行動変容とパフォーマンスの限界、さらに人間社会環境条件が行動に及ぼす影響の原則について講義する。

人間行動と環境(医)Ⅱ 2単位

黒田 勲

生活環境における健康、作業環境におけるパフォーマンスに影響する因子について、仕事、仕事環境、人間関係、これらの管理を含めた外的要因、心理的および生理的ストレスサ、個人特性による内的要因、人間-機械インターフェイス、自動化等、総合的観点から検討を加える。さらに緊急事態、強度ストレス環境、航空宇宙環境等の特異環境における人間行動を含めて講義する。

心理検査法Ⅰ 2単位

富田 正利

人格の評価法として最も一般的な質問紙法について概観し、その代表的なものについて、体験を通して理解を図る。質問紙法とは人格に関わりのある、人間の行動や考えなど

の叙述の目録を作り、これが個人に該当するかどうかをチェックさせることによって人格を知ろうとする方法であり、ここでは MMPI, CPI などを取り上げる。

心理検査法Ⅱ 2単位

富田 正 利

質問紙法に対置する人格評価法として広く利用されている、ロールシャッハ、TAT などの投影法について概説し、2、3の方法について実習をまじえて紹介する。投影法は多義的な刺激に対する反応を、身につけた分類法の知識に照らして分析せねばならないので、その実施に当たって既にその方法に通曉していなくてはならない。したがって、実習がかなりの部分を占めるであろう。

行動検査法 2単位

坂野 雄 二

人間の行動や情動（生理的反応を含む）を客観的に査定するための方法論や実験計画法、統計的処理等について、その基礎理論と実際について概説を行う。また、代表的な行動検査法に関しては、その実施と評価の方法について実習も併わせ行いたい。

行動療法Ⅰ 2単位

坂野 雄 二

学習心理学の原理を人間の情動や行動の変容に応用した治療技法体系が行動療法である。本講では、行動療法の原理、歴史、代表的な技法について概説を行い、行動療法の概略を把握するとともに、行動療法による臨床の基礎的な知識を習得する。使用する教科書および参考書は追って連絡する。

行動療法Ⅱ 2単位

坂野 雄 二

行動療法の最近の動向である「認知的行動療法」の基礎と応用について概説するとともに、症例研究を通して、行動療法における「言語の機能」について論究する。また、行動療法の基礎となる「実験臨床心理学」の方法論について講義を行う。本講の受講者は、「行動療法Ⅰ」を受講していることが望ましい。テキストおよび参考書は追って指示する。

心理療法Ⅰ 2単位

門 前 進

心理的な悩みを解決するために、心理療法が現実には用いられている。基本は人間理解である。現実にはさまざまな心理療法が行われているが、それぞれの心理療法にはそれぞれの人間理解の仕方がある。しかし、かなりの心理療法の人間理解の仕方には、多かれ少なかれ精神分析の考え方が入っている。それ故、精神分析的立場からの人間理解、悩みの理解について、考えていく。

それに続いて、伝統的な精神分析の方法ではなく、精神分析的な立場でのカウンセリングの方法である簡易分析の方法について、考えていく。

同一授業のなかで、前半は上述したような考え方の習得に重点を置く。後半は実習を行う。実習としては、主にリラクセーションの方法の体得に重点を置く。

心理療法Ⅱ 2単位

門 前 進

心理療法Ⅰの内容は、精神分析的考え方を基礎としたカウンセリングの方法である簡易分析であるが、心理療法Ⅱの内容は、イメージ療法を中心に据える予定である。心理学研究、心理療法の実践において、最近特にイメージに対する関心が高まってきている。そこで、この授業では、さまざまなイメージを用いた心理療法について、考えていく。

同一授業のなかで、前半はイメージ療法におけるイメージの用い方について考えていくが、後半は、実習を行っていく。実習の内容としては、簡単なイメージ体験、また、さまざまなイメージ場面を取り上げ、そのイメージ場面について、考察を行っていく。

行動医学Ⅰ 2単位

黒 田 勲

人間の各種感覚器の特性、知覚情報伝達過程における変容、大脳中枢の局所性、中枢情報処理の諸種モデル、遠心性情報伝達経路と効果器特性、筋骨格系の特性など人間行動の基本原則について定性的および定量的に把握する。

さらに行動の原点となる中枢情報処理モデルがいかなる行動の変容と関連しているかを事例について考察する。本能行動、情緒に基づく行動の特性とその変化、意識、注意、疲労、睡眠等の行動との関連性を医学面に主点を置いて講義する。

行動医学Ⅱ 2単位

黒 田 勲

「行動医学Ⅰ」を基礎として、年齢変化に伴う生体機能と行動変容、とくに高年齢化による精神、心理面と行動面の変化について述べる。

各種ストレスに関連する人体のホメオステシス、ホルモン系の平衡と行動の関連性、教育訓練に関連する情報処理のメカニズム、人間行動におけるミスのメカニズム、各種薬剤、有毒物の行動に及ぼす影響、心身医学および精神医学面から見た行動変容について講義する。

学校カウンセリング 2単位

菅 野 純

子ども時代に生じる様々な障害（精神遅滞、自閉症 etc.）や“つまずき”（登校拒否、非行、無気力、ノイローゼ、自殺 etc.）の事例をもとに、(1)子どもの行動の理解の方法、(2)子どもの障害や“つまずき”への援助の方法について講義する。

比較文化論 2単位

蔵 持 不三也

谷 川 章 雄

ひとつの文化的事象には、つねにそれを成立させる技術や知識、伝統、展望、関連性と

いったコンテキストが伴う。こうした事象から構成される《文化》をとらえるのは、したがってかなりの困難を覚えるものであるが、本講ではヨーロッパ、とくにフランスと中国などの東アジア及び我が国の民衆生活に視点を据え、異文化理解の一方法である比較という作業によって、彼我の文化のアイデンティティを追求し、さらに歴史の浅い比較文化の学問的有効性などについても考えていきたい。

栄 養 学 II 2単位

太 田 富貴雄

人間は食物から各種の栄養素を摂り入れ、それを体内で様々に変化させて成長・発育し、また生命維持や活動に必要なエネルギーを獲得している。栄養素の質・量が不均衡な食事を長く摂り続けていると、生体の代謝や生理機能が損われて不健康な状態におちいる。本講義では、摂取した栄養素が消化・吸収を受けて体内で利用・排泄される迄の過程、各種栄養素の生体機能や健康指標におよぼす効果など栄養学の生理学的側面を主体に述べる。

人 間 工 学 II 2単位

野 呂 影 勇

本講は、人間工学を専門的に扱う学生にとって必要とする基礎的な考えと課題解決のためのプロセスの理解を目的としている。人間工学は、現実の諸問題と極めて密接に関わっていることから、下記のトピックスの解説を通じて、問題の本質を見る眼を養い、解決に必要な人間工学の考え方と専門的な方法の理解をねらいとする。トピックス：広告に見る人間工学 人間と周囲環境の空間的相互関係 座位姿勢とスパイン 椅子と座り心地 カメラ ソフトウェア プラント・ワークステーションと災害 官能検査 医療と病院
テキスト：調査・実験人間工学 日刊工業新聞社

特 論 III (学校カウンセリングの諸問題) 2単位

小 泉 英 二

この特論の前半では、現在の学校で起こっているさまざまな問題行動の中から、日本独特の問題といわれる「登校拒否」に焦点をあて、その原因論、心理機制、治療の考え方を分析しつつ、その背景である日本的な社会状況、学校要因、家庭および家族関係などの問題点について講義と討論を行いたい。

後半は、日本における学校カウンセリングについて、実態や特色および問題点を明らかにし、今後の方向を考えるステップとしたい。問題意識と積極的態度をもって討論に参加しようとする学生の受講を望む。

特 論 IV 2単位

チャールズ・W・ゲイ

Course Title: Intercultural Communication

Instructor: Charles W. Gay

Time: 90 minutes per week

Limited to 40 students with sufficient proficiency in English to read articles,

write short papers, and participate in discussions.

Purpose: To develop an understanding of the place of intercultural communication in the human sciences, to develop cultural awareness, to understand Japanese culture better and more objectively, to compare cultures, to understand the meaning of "global village," to examine cultural case histories, to solve cultural problems, to understand ethnocentricity.

Course work : Lectures

Cultural simulations

Reading articles

Writing short papers

Class discussions

Examining case histories

専門教育科目（スポーツ科学科 必修）

スポーツ社会学 2単位

宮内孝知

スポーツは現代社会において極めて大きな、かつ、重要な意味を持つ社会現象である。それは一つの文化として大きな勢力を持っているばかりでなく、政治や経済と密接な関係にあり、そこに社会学的理解の必要性和意義がある。本講義では、スポーツの社会的な意味と価値、その機能などについての基礎的理解を得ることをねらいとしている。

〔教科書〕：『スポーツ社会学講義』（大修館）

スポーツ情報論 2単位

中条一雄

情報化時代の今日、一瞬にして世界を駆けめぐる大量の情報に、スポーツ界は大きな影響を受けている。スポーツに対する選手や大衆の考え方、世間の目も、めまぐるしく変化しつつある。スポーツと情報のかかわり合いを、次のような綱目で追及してゆきたい。

- ① スポーツの発達と情報の大切さ
- ② 真実とは何か。見る目の大切さ
- ③ 情報と商業主義・企業
- ④ 情報とプロ・アマ問題
- ⑤ 情報と政治権力。言論の自由
- ⑥ ニュースと解説・評論
- ⑦ 情報の分析と利用・新聞の読み方
- ⑧ 情報の分析の実例
- ⑨ わかり易い情報とそのまとめ方
- ⑩ 情報としての体育学

スポーツ文化論 2単位

寒川恒夫

スポーツを文化の問題として論じるために、以下の諸項目について講義をおこなう。

1. 文化の概念。
2. スポーツの概念。
3. 遊戯、ゲーム、体育、身体文化などスポーツと関連する諸概念とこれら諸概念間の関係。
4. 未開・伝統的社会と現代社会における、全体文化とスポーツ文化要素（あるいはスポーツ文化複合）の関係の諸相。

〔教科書〕：『スポーツ人類学入門』（プランチャード，チェスカ共著，大修館書店）

スポーツ経営学Ⅰ 2単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学とは何か。その意義と，理論体系について，組織論，経営過程論，行動科学等に依拠しながら概説する。

社 会 調 査 4単位

千 石 保

国・地方公共団体・企業などが，政策を決定するためには，国民や消費者などのニーズを把握する必要がある。

社会調査は，この世論や消費傾向などを探ぐるための手段である。本講座では，調査課題と仮設の設定，統計的調査法，事例的調査法，などの理論を学習するほか，典型的な政治に関する世論調査，商品開発のための，いわゆるマーケット・リサーチなどのケースを取りあげて，実践をも学ぶ。

スポーツ心理学 2単位

上 田 雅 夫

スポーツ心理学の学問としての体系づけには，いくつかの立場がある。本講義では，心理学の科学的方法によって体育・スポーツ事象の諸問題がいかにとらえられるかを究明する立場をとっていきたい。主な問題領域としてはつぎのものを予定している。(1)スポーツ行動の本質，(2)運動・競技の適性，(3)トレーニングの諸問題，(4)競技力について，(5)緊張異常とその対策。

バイオメカニックスⅡ 2単位

永 田 晟

多くの基本運動とスポーツ活動を工学，整形外科学，解剖学，生理学的な面から考究し，それぞれの運動メカニズムを講義する。運動現象の機構をわかり易く詳講し，演習をしながら実証する。バイオメカニックスの基本用語を熟知し，スポーツ科学のスペシャリストとしての知識を学習する。

- (1) 基本運動の分類と人体解剖図
- (2) スポーツ活動時の骨・筋，靱帯，神経，血液の働き
- (3) バイオメカニックスの研究手法
- (4) 運動神経機構と神経支配
- (5) キネテクスな解析例
- (6) キネマテックスな解析例
- (7) 動きのエネルギー効率
- (8) バイオ・フィードバックの応用
- (9) パワーの出し方
- (10) 各種運動方程式と生体工学

〔教科書〕：『バイオ・キネテクス』（杏林書院）

体力トレーニング理論・実習 2単位

加 藤 清 忠

体力とは何かとの基本的な理解の上に、体力養成ムーブメントの歴史的背景や現況に触れるとともに、体力の維持と向上に必要なトレーニングの原則や具体的な方法について解説する。実技演習ではウェイトトレーニングを中心に進めていく。したがって、一般的にバーベルやダンベルを用いたトレーニングを行うが、必要に応じマシンによるトレーニングをも実施したい。

テキスト：『トレーニングマニュアル』（前野書店）

演 習 I（バイオフィードバック法と行動療法）4単位

児 玉 昌 久

生体情報を外部刺激におきかえてフィードバックし、心身を自ずから制御することを目指すバイオフィードバックは、行動理論に基づく方法で行動の改善を試みる行動療法の一つである。行動理論の基礎となる考え方や、バイオフィードバック手法の理論についての文献講読を中心に、基本的な生理指標についてのバイオフィードバックを実際に体験しながら、心身の自己制御の意味や可能性について考えてゆく。

演 習 I（精神生理学・生理心理学の発展）4単位

山 崎 勝 男

精神生理学は人間の精神的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる生理的な変化を従属変数としてとらえるが、一方生理心理学は生理的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる行動を、従属変数としてとらえるところに両者の違いがある。いずれも、行動の諸側面を中枢神経系の構造と機能とに対応づけて考察する、心理学と生理学の学際的な立場をとる。当演習ではこの学問領域の初歩的な理解を深めることを目的とし、方法論を含めた基礎的な実験を併用して、生理的な指標の測定法をまずマスターしてもらう。同時に関連する内外の代表的な論文を輪読し、この学問の位置づけを明確とする。受講者は「精神生理学及び実習」を履修していることが望ましい。取り上げる生理的な指標は、脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図である。

演 習 I（運動と代謝）4単位

村 岡 功

本演習では、運動生理学に関する専門書（英文）を輪読しながら、運動を生理学的に把握するとともに、運動生理学およびスポーツ生理学における基礎的な測定技術を習得する。

演 習 I（スポーツの民族学的考察）4単位

寒 川 恒 夫

スポーツ民族学についての基礎的演習をおこなう。スポーツ民族学は、未開社会と伝統的社会（それに一部は現代社会）のスポーツ（遊戯、ダンス、ゲーム、運動競技などを包

括する広義のスポーツ)を民族学(文化人類学)の方法によって研究する分野である。本演習は第3年次演習のための基礎の性格を有するため、その主要目的は、日本と諸外国のエスニックスポーツとその文化的背景について幅広い知識を得ることに置かれている。この目的を達成するために演習は次の2つの方法によって進められる。1つは内外のスポーツ民族誌資料の講読と映像資料の分析であり、他の一つはフィールドワークの実習である。フィールドワークは特定村落に数日間宿泊して、その地に伝承されるエスニックスポーツの採録に当たるもので、採録は、当該スポーツの当該社会における文化的意味を解説すべく、文字とカメラ・ビデオ等映像機器とによっておこなわれる。

演 習 I (スポーツ社会学演習) 4単位

宮 内 孝 知

スポーツ及び社会科学に関する文献をできるだけ広く講読し、スポーツの社会学的理解に必要な基本的態度や知識を高める。いわば、社会とスポーツの関係を様々な角度から検討しながら、「スポーツ社会学とは」という問題に、自分なりの解答を得られるようになることをねらいに演習をすすめることになる。

従って、幾つかのサブグループに分かれての討論・発表なども一つの方法であると考えている。

演 習 I (衛生学演習) 4単位

町 田 和 彦

将来、研究活動、国内・国外の保健活動(行政)および環境や健康科学を生かして、各種企業に進むことを希望する学生が、そのため最低限度の研究および活動の進め方(問題解決能力)と実験の手技を身につけられるようなトレーニングをおこなう。

前期は衛生学・公衆衛生学の解説、ビデオ又はスライドを主とした細胞の構造、人体の構造と機能、微生物学の講義、AIDSの疫学の英文の精読、一太郎(ワープロ)、HALBAU(統計)を用いたパソコン実習を主とし、後期は衛生統計を主としたパソコン実習、基礎的な実験方法の実習、血液学実習、尿中成分の分析等演習Ⅱでおこなう実習の基礎実験を主におこなう。

本演習を希望する学生は選択科目の衛生学、公衆衛生学Ⅰ、同Ⅱほか、学科共通選択科目も含め、できるかぎり多くの医学関連科目を履修することが望ましい。また、衛生学・公衆衛生学の内容は非常に多岐にわたり、演習ⅠおよびⅡで多種類の実習項目をおこなうことになるが、ここで出来る内容には限度があるため、将来、多少なりとも専門を生かした職業を希望する人の大学院進学を歓迎する。なお、演習Ⅰは規定の時間内でおこなう。選択にあたっては演習Ⅱの内容を必ず良く読んで選択すること。

演 習 I (リハビリテーション理論と方法) 4単位

比 企 静 雄

リハビリテーションの対象としては、身体障害から精神障害にわたって、その種類や程度も非常に多様なものがあるが、この演習Ⅰおよび演習Ⅱでは、身体障害のうちで、人間

の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目する。

そして、それらの障害を検査する方法や、障害された機能を修復したり代行したりする可能性や、機能を回復するための訓練の効果などについて、工学や医学や教育学などの見地から基礎的な知識を解説する。また、検査に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復のための訓練システムなどについても、技術的な進展の状況を紹介する。

演習Ⅰでは、主として感覚障害を取り上げ、そのうちでもとくに、視覚に障害がある場合に文字を読んだり書いたりする機能を回復するための、あるいは聴覚に障害がある場合に音声を聴いたり話したりする機能を回復するための、検査・訓練の手順について理論的な考察をし、機器・システムについて実験的な検討をする。

演 習 Ⅰ（地域・職場等におけるスポーツ経営）4単位 梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学の基礎理論を理解することが出来るよう、先行論文・資料等に関する文献研究を中心に研究討議を行なう。特に、スポーツ経営学の基礎理論を、学校体育としてのスポーツ経営、地域や職場におけるスポーツ経営、商業スポーツ施設（スイミングクラブ、テニスクール、リゾートスポーツエリア等）の経営、競技スポーツの集団（チーム）の経営等の各領域にどのように活用したらよいか、という視点を常に意識しながら、より正確に、より深く理解できるようにする。また、経営調査（診断・評価）の技術を身につける上で必要な、基礎的準備についてもこの演習のもう一つの柱とする予定である。

なお、テキスト・参考書等については、授業の初めに指示する。

演 習 Ⅰ（スポーツ法学演習）4単位 濱 野 吉 生

この演習は、スポーツ法学の全体を把握するとともに、その研究手法を習得することを目的として進めていく。

したがって、授業の前半は、スポーツ法学そのものの理解に重点を置き、後半は、報告・討議を交えつつ、具体的な事例・判例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業中に指示する。

演 習 Ⅰ（バイオメカニクス）4単位 鈴 木 秀 次

スポーツ活動における身体の「動き」のからくりについて理解、把握させる。

第1番めに、筋肉についての生理学を講義する。次に、人体筋肉模型、人工骨模型、脳・脊髄神経系模型等を用い、動きに関わる解剖学的な基礎知識を習得させる（後期中に一度他大学医学部解剖学教室へ人体解剖実習に参加する）。3番目に、生理学的手法を用い、神経筋の特性について実習する。

以上、スポーツ活動における身体の動きのからくりを明らかにすることを目的として演習をすすめる。

演 習 I (栄養と健康〈総論〉) 4単位

太 田 富貴雄

人間が成長し健康で活動的な生活を送るためには、およそ50種類の栄養素を食物から摂取しなければならない。これらの栄養素は各々特有の機能、すなわち体成分の構成材料やエネルギー源、あるいは生理機能の調整などを行っており、栄養摂取の過不足や不均衡は体力、運動能力更には健康水準の低下をもたらす。本演習は、栄養に関する基礎から応用に至る幅広い知識を、スポーツ活動や健康管理などに実際に活用できるように身につけ、更に栄養・食生活とスポーツ・健康などに係わる卒論を作成する際に必要な技術・方法等を習得することを目的にしている。演習〔I〕では、食物と栄養に関する基本的事項、について取り扱い、スライド・ビデオ資料を用いての解説と関連文献の輪読、討論および食品・生体試料の化学分析に必要な基礎的化学実験を実施する。

演 習 I (運動学演習) 4単位

塚 協 伸 作

運動学(運動形態学)は、各種スポーツの運動形態(運動フォーム)の成立と変化に関して研究する学問である。各種スポーツ運動の技術の把握、そしてその習得・習熟、即ち荒削りのフォームから技術的に洗練されていく発展を通じて、その運動の特性を明確にしようとするものである。

このような運動学の立場から各種スポーツにおける運動特性、運動発達、運動類系、運動方法について理解することにはじまり、次のような順序で演習を行う。

1. 運動学に関する問題意識喚起のための話題提供とその討議を行う。
2. 国内外の文献収集とその講読を通じて現状を把握し、運動学的考察を行う。
3. 運動学的研究法の手順とその実践を行う。
4. 各自の運動学的研究課題設定への準備を行う。

演 習 I (体力科学と運動処方) 4単位

永 田 晟

スポーツ科学のうちの体力医学、運動学、健康診断学、運動処方学、スポーツ医学、生理人類学、スポーツ心理学などの基礎的な学問分野のベーシックな研究方法を教授し、オールラウンドな科学的で客観的な手法を学習する。この方法を学ぶためには実際に各種スポーツを実施し、運動が生体に与える効果と問題点を把握する必要がある。その後の実習室において動きを再現し、スポーツ刺激による生体応答や反応を科学的に記録し、処理する方法とアタックする態度を学んでいく。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

- 1) 日常生活行動(ADL)の観察と記録、2) ADLの可動範囲と生体解剖、3) エアロビックエクササイズの実施とその問題、4) 有酸素運動の生理機構、5) ラケット、バット・スポーツの用具と人間の整合性、6) 回内・回外運動などのスポーツ医学と障害、7) フィットネスの運動プログラム、8) 健康・体力レベルの測定・検査法、9) ランニングのプログラムと生活処方、10) 肥満の意味と水中体重法の測定、11) アクア・エクサ

サイズの実施（流れるプール）、12）密度・比重と血圧・心電図などの記録、13）疲労とストレス解消法、14）スポーツ権と健康・体力づくりの方法。

演 習 I（国際スポーツ論）4単位

古 市 英

オリンピック大会をはじめ、各種の国際大会は、このまま肥大化の一途をたどるのか。金メダル獲得のために各国は、どんな施策を用いているのか。そして、それが国策とどう結びついているのか。つまり、世界各国は、スポーツを社会の中でどう位置づけ、どう評価しているのか。

こうした問題に答えるためには、スポーツの本質、あるいはその領域、原点を学ばなければならない。

本演習では、スポーツ原理とスポーツ社会学の手法を取り入れながら、スポーツと政治、スポーツと経済をふまえて、国際スポーツ論の確立にむかった方向性をとる。

具体的な演習内容については、オリンピックムーブメントをはじめ、各国のスポーツについて論文、資料、原著等の文献研究とプラクティカムな実践研究を加えた調査報告、研究討論を中心とする。なお、現状をより正しく把握し、理解するために可能な限りゲストスピーカー（外国人を含む）に各国のスポーツ事情についての講義を聞く。（参考書等は授業時に指示する）

演 習 II（バイオフィードバック法と行動療法）4単位

児 玉 昌 久

「演習I」に引きつづき、心身のセルフコントロールを扱うが、単に障害や行動異常の治療法としてではなく、リラクゼーションによるストレスへの対応や、身体運動の技術習得法としてのバイオフィードバック法の理解を、各種生理指標に関する諸研究の講読と併せて深めてゆく。また、生理指標以外の行動的指標などを用いてのバイオフィードバック訓練の可能性についても、実験などの体験を通して検討してゆく予定である。

演 習 II（精神生理学・生理心理学の発展）4単位

山 崎 勝 男

「演習I」で学習した基本的事項をさらに深く追求し、この研究領域の主要なテーマである生体のリズム、夜間睡眠の諸相、睡眠ポリグラフィ、注意、定位反射と慣れ、注意と事象関連電位、脳機能の左右差について広範な文献研究を行って、現在の国際的な研究動向を探ることを演習の目的としたい。受講者は文献研究に参加して、各自の興味にもとづいた文献紹介及び報告の役目を随時担う。これらの経験を基礎として、受講者各自が研究計画を立案し、グループ討議を経た後に、実験手続き書を作成して、受講者自らが実験者となり、短期間の実験を遂行する。ここで得られた実験結果を基に小論文を作成し、発表してもらう。本演習は卒業論文の予備研究の性格が濃い。この演習IIでマスターした研究方法を基盤として、4年次の卒業論文へ発展、展開してもらいたいと考えている。

演 習 II (運動と代謝) 4単位

村 岡 功

「演習Ⅰ」の活動を基礎として、ここでは特にエネルギー出力に焦点を合わせ、その実験技術を演習する。また、継続して英文の輪読を行うが、「演習Ⅱ」では各自の卒論の研究テーマと関連の深い内外の論文を渉猟し、その内容を発表する。

演 習 II (スポーツの民族学的考察) 4単位

寒 川 恒 夫

スポーツ民族学の理論についての演習をおこなう。一世紀の研究史をもつスポーツ民族学は、これまでに、進化論、伝播論、機能論、構造—機能論、解釈論、象徴論などさまざまな理論から接近されたすぐれた数多くの論文・著書を有している。本演習では、こうした論文・著書の講読を通して、スポーツ民族学の主要な諸理論について理解する。あわせて、卒業論文の作成に必要な研究方法についても学ぶ。フィールドワーク実習は第二年次に引き続きおこなわれる。

演 習 II (スポーツ社会学演習) 4単位

宮 内 孝 知

内外のスポーツ社会学の論文を広く読みながら、スポーツの社会的理解を深めるとともに、基本的な研究方法の演習をする。また、この「演習Ⅱ」を通じて、多岐にわたるスポーツ社会学の研究領域から、自分の研究テーマを具体化していくことも必要であろう。

〔参考書〕：『体育・スポーツ社会学研究』（道と書院）、『Sport and Social Theory』（HUMAN KINETICS）、SSJ、IRSS 所収の論文等

演 習 II (衛生学演習) 4単位

町 田 和 彦

演習Ⅰで身につけた基礎的知識と実験手技をさらに充実させるとともに、研究能力の育成に重点をおく。前期は動物の取り扱い実習、動物解剖（ラット・マウス）、水質検査、空気の物理・化学的性質に関する実習、細菌学実習、ウイルス・免疫学実習等の実習を主に行う。

後期は、感染症の疫学のペーパーシミュレーション、栄養学実習、疲労・体力測定・代謝機能の測定等体力医学実習、組織培養細胞実習と各細胞に与える重金属の毒性実習を行った後11月後半より卒論について考えていく。

なお、演習Ⅰ、Ⅱとも各休み中（夏、冬、春）には衛生・公衆衛生関連テーマについての英文和訳と本の抄読のレポート提出をおこない。一層の理解を深めるとともに、実習の前にはそれぞれに関連した話題について、ビデオ又はスライドを中心とした講義をおこなう。なお演習Ⅱは必ずしも時間通りには終わらないので4時限（時には5時限）の科目や活動をさけることを希望する。

演 習 II (リハビリテーション理論と方法) 4単位

比 企 静 雄

演習Ⅰの内容を前提としているが、演習Ⅰでは感覚障害をとりあげたのに対して、演習

Ⅱでは主として運動障害をとりあげ、それらの障害の検査・診断の手法や、障害された機能の修復・代行の可能性や、機能回復のための訓練の効果などについて解説し、検査に使われる機器や機能の修復・代行のための補装具や、機能回復のための訓練システムなどについても紹介する。

運動障害のうちでは、とくに、下肢の障害に対する歩行機能の回復、あるいは上肢の障害に対する器具の操作機能の回復について、検査・訓練の手順の理論的な考察と、活用できる機器・システムの実験的な検討をする。

演習Ⅰ・Ⅱ（リハビリテーション理論と方法）では、基本的には以上のような内容を予定しているが、それぞれの項目について講義・実習・見学を進める過程で、リハビリテーションの技術的な側面だけでなく、障害者のための施設・機関、指導員の養成制度、公的・私的な福祉体制、障害児の教育環境などのような種々な側面も取りあげる。

また、障害という特殊な対象のための研究の手法を、正常な対象へ拡張して、感覚機能・運動機能の向上を計るという立場から、生体工学あるいはスポーツ工学の分野での一般的な研究課題も、この演習Ⅰ・Ⅱに含まれる。

演 習 Ⅱ（地域・職場等におけるスポーツ経営）4単位 梅 澤 宣 雄

スポーツ経営の実践領域である、学校、地域、職場、スポーツ施設等に関する経営学的研究に資料を求めながら、スポーツ経営の理論体系について学習することを基本的なねらいとする。同時に、演習Ⅰにおける学習をもふまえて、ここでは経営調査グループを組織して実際に調査を行う予定である。すなわち、目標の設定、調査計画の立案から、調査票の作成、調査の実施、結果の処理、まとめといった一連の具体的な作業が予定されている。さらに、このような経営調査（実態調査）と、スポーツ経営学の理論を高めたり、確かめたりするための研究との違いや、その関係についても十分な理解が得られるよう配慮する。そのことが、次年度の卒業論文への取り組みにとってたいへん重要であると考えからである。

演 習 Ⅱ（スポーツ法学演習）4単位 濱 野 吉 生

この演習は、「演習Ⅰ」（スポーツ法学演習）を踏まえ、報告・討議を交えながら、スポーツ法学のより高度な理解と研究手法の習得を目的として進めていく。

参考書等について、授業中に指示する。

演 習 Ⅱ（バイオメカニックス）4単位 鈴 木 秀 次

演習Ⅰではバイオメカニックスの基礎として、筋生理学、解剖学を中心に実習を行ってきた。ここでは身体運動における生体の運動現象を力学的解析によって得られる科学的法則について実習を行う。

テキストとして Neuromechanical Basis of Kinesiology (R. M. Enoka) を使用する。

演 習 II (栄養と健康〈各論〉) 4単位

太 田 富貴雄

成長期のタンパク質やカルシウム・ビタミンAに富む食事は骨格・身長の発達を促し、中高年期の多価不飽和脂肪酸や植物タンパク質・食物繊維が多い低食塩食は、動脈硬化や高血圧の進行を抑えて成人病を予防する。この様に一生の時期により栄養摂取の至適パターンは変化し、また各種疾患の予防や治療に有効な食事構成も異なる。本演習では、成長・発達や体力・寿命など各種健康要素と疾病の予防・発生におよぼす食生活の影響について、文献による調査・検討並びに討論と食品・生体試料の化学分析およびラットによる栄養実験を行う。

演 習 II (運動学演習) 4単位

塚 脇 伸 作

「演習Ⅰ」(運動学演習)に引き続いて、一層の充実を図るために次のような演習を行う。

1. 各自の研究課題を設定し、そのための文献収集とその考察
2. 各自の研究課題に応じた研究法の実際による記述資料作成とその考察
3. 各自の研究課題の研究報告とその討議
4. 反省と卒業論文作成のための準備

演 習 II (体力科学と運動処方) 4単位

永 田 晟

スポーツ科学は古典的な学問分量を基礎とした総合的な境界領域の人間科学の一つである。この観点に立ってスポーツ科学は人間にいかに関与し、役立つかの具体的な方法を教授する。スポーツ科学者としての資格と能力を陶冶できるように配慮し、スペシャリストとして成長することを期待した演習である。演習Ⅰを基本として、応用科学をマスターする。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

- 1) 加速度計による運動量の測定, 2) カロリー消費量の計算と肥満対策, 3) コンピュータ・オンライン・システムの作成(床反力など), 4) スポーツ・スピリットの分析, 5) 運動負荷試験のやり方, 6) メディカル・チェックの方法, 7) 生体の電気的現象の記録(EOG, EMG, EEG, ECG, GSRなど), 8) スポーツ姿勢と構え(重心軌跡), 9) 運動エネルギー示性式(三次元運動方程式), 10), 生理的な限界と心理的な限界, 11) トレーニング法と健康・運動処方, 12) スポーツ・マッサージとカイロプラクティス, 13) ウィンター・スポーツと障害予防, 14) 企業フィットネスとメディカル・フィットネス。

演 習 II (国際スポーツ論) 4単位

古 市 英

演習Ⅱに関しては、基本的には演習Ⅰの延長線上に位置するが、各自の演習テーマについて、現地調査(海外調査も含む)、実体験(海外体験も含む)、研究(文献研究も含む)等を経て得た資料、実績等を、比較研究法の手順に従い整理し、結論づける。

インディビジュアルスタディーの形式をとった授業進行をはかる予定である。

専 門 教 育 科 目 (スポーツ科学科 選択)

社会構造論 2単位

濱 口 晴 彦

社会構造の概念は、人間の社会的存在を理解する前提の一つである。このことについて、日本の新中間層の形成、発展、そして現在の諸相を、演習形式をとり入れ、理解を深めていくよう試みたい。

スポーツ経営学Ⅱ 2単位

梅 澤 宣 雄

「スポーツ経営学Ⅰ」が、経営理論全般に亘る概論であるのに対し、この科目は、専ら学校におけるスポーツ経営（体育経営・管理）の問題に限定するものであり、いわば各論（領域論）の一つであるといえよう。従って、この科目を選択履修する者は、あらかじめ、「スポーツ経営学Ⅰ」を修了していることが望ましい。

特に、教員免許を取得しようとする者にとっては、必須の科目であることに、注意されたい。

社会調査・実習 2単位

千 石 保

社会調査は、研究課題の設置、調査仮設の設定、調査票の作成、フィールドワーク、統計的处理、データ分析の手順で進められる。

本講では、これらの手続きを、学校内におけるさまざまな病的問題、教育制度や社会構造、青年の労働観、政治意識、家庭における親子関係や人間関係、商品開発などのマーケットリサーチなど、具体的問題について実践する。

コミュニティ論 2単位

岡 野 静 二

まずコミュニティとは何かを、基本的に理解する。そして日本にふさわしいコミュニティの概念を把握する。その概念にてらして、日本の過去の地域社会に存在していたが現在失っているもの、現在の地域社会で始めて得たものなどを考える。そしてコミュニティ形成に必要な条件とは何かを知る。行政の役割、住民運動、ボランティア活動などについて、現情を把握し、それらの意義と役割について明らかにする。

スポーツ法学 2単位

濱 野 吉 生

ここではまず、スポーツ法学の基礎理論と構造について説明し、次に、スポーツ法学が直面している具体的な問題を適宜取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業のはじめに指示する。

スポーツ行政論 2単位

深 川 長 郎

1. スポーツ行政のねらい・目的。2. 日本のスポーツ行政の現実。〈国および地域におけるスポーツ行政。〉3. 世界のスポーツ界の組織と行政的とのかわりについて。4. スポーツ関連の諸法規等と行政との関係について。5. オリンピック憲章、アジアオリンピック評議会憲章、国際大学スポーツ連盟憲章等とこれに関する行政について。6. ユネスコ等国際的諸機関のスポーツ行政への影響について。7. 将来のスポーツ界の行政的とり組みについての展望。

以上の現実をふまえて考察を進める講義内容とする。

公衆衛生学Ⅰ 2単位

町 田 和 彦

衛生学の講義要項でのべたごとく、衛生学と公衆衛生学の区別は難しい。そこで公衆衛生学Ⅰは衛生学で一応基礎的な衛生・公衆衛生学的な知識を身につけた学生が、実際に地域住民の中に入って保健指導をおこなううえでの重要な知識や方法論を身につけられるような講義内容をもつ。その意味では、公衆衛生学Ⅰだけの選択はさけ、衛生学を必ず選択してほしい。

内容は、公害、母子保健、成人保健、産業衛生、地域保健、人口問題、衛生統計、衛生行政、衛生法規等を予定している。

教科書は衛生学と同様、『簡明衛生公衆衛生』平成2年度改訂版（南山堂・菊池正一他）を使用する。

公衆衛生学Ⅱ 2単位

町 田 和 彦

衛生学、公衆衛生学Ⅰで学んだ基礎的事項の応用編として、各時間一テーマごとの特論形式で近年問題となっている衛生公衆衛生学上のトピックスをまじえ、スライドを中心とした授業をおこなう。健康問題を巾広く考えていきたいと思う学生を学科にかかわらず歓迎する。但し、昨年度は出席重視で成績をつけたが、今年度からは毎回15分間のレポートを課し、その時間内の講義の理解度により採点をおこなう。

内容は、公害と自然保護、微量元素の生体内相互作用、カドミウムの健康障害、薬害、食品添加物、日内リズム、季節と健康、最近の感染症、肝炎の疫学、AIDSとATL、国民衛生の動向、人間と環境等を予定している。

生 理 学 2単位

吉 岡 亨
村 岡 功

生理学は極めて広い分野を包括する分野であり、ライフサイエンスの基礎学問の一つである。ここでは一般生理学入門コースを講義する。目や耳から入った情報がどのようにし

て脳に送られるのか？ 脳から筋肉へどのようにして指令が送られるのか？ 等の疑問に答えながら、生物としての人間、即ちヒトの生命活動の基本現象を分子のレベルで捕える。

衛 生 学 2単位

町 田 和 彦

病気を治療する臨床医学に対し、病気を予防し、健康の維持増進をはかる学問として、衛生学、公衆衛生学がある。今日、この二つの学問は明確に区別できないが、歴史的過程からいって、日本では、衛生学は環境衛生、感染症、栄養・体力医学等実験室内でおこなう研究が多いのに対し、公衆衛生学は地域医療の諸問題（母子保健、学校保健、成人保健、精神衛生、産業衛生等）や人口問題、衛生行政等、直接地域住民の中に入り、健康問題の改良にとりくむ研究が多い。しかし内容的にみてその両者を分けることは難しいため、本学の衛生学では、なるべく多くの衛生、公衆衛生学上の考え方や知識を身につけるため、衛生・公衆衛生の歴史、衛生・公衆衛生学（保健学）の医学の中に占める位置と重要性、環境衛生、感染症、疫学、栄養学等を中心に講義を進めていく。

教科書は当分の間、『簡明衛生公衆衛生』（南山堂・菊池正一他）を使用するが、平成2年度より改訂版となるため、従来のは使用できないので注意すること。

運 動 生 理 学 2単位

村 岡 功

運動と関連深い生理的機能は、主に運動を支配する神経系および内分泌系、運動を発現する骨格筋系、ならびに運動を持続する呼吸循環系である。

ここでは、これら生理的諸機能に焦点を合わせ、一過性の運動およびトレーニングによる影響について言及する。

なお、この科目を履習するにあたっては、前期に「生理学」を履習しておくこと。

バイオメカニクスⅠ 2単位

鈴 木 秀 次

スポーツ・バイオメカニクスとは、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して、身体運動のからくりをより良く理解するための応用学です。ここでは、動きにおける神経性の調節機構の（からくり）について解説する。

身 体 形 態 学（解剖学を含む）2単位

加 藤 清 忠

本講座はヒトの身体の形態に関する理解を深めようとするものであるが、内と外との両側面から概説する。内からとは解剖学的立場であり、身体の基本構造から骨や筋を中心とした運動器官系まで言及する。外からとは体育学的・人類学的立場であり、発育段階に応じて身体比例や体格・体型に関して述べる。

リハビリテーション 2単位

比 企 静 雄

人間の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目して、障害の検

査・診断の手法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復訓練の効果について、基礎的な知識を解説し、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムなどについても、技術的な進展を紹介する。あわせて、リハビリテーションにおけるこれらの医療技術と障害者の教育や福祉との係わりについても、問題点を指摘する。

〔スポーツ科学科の専門教育科目（必修）の演習Ⅰ・演習Ⅱ（リハビリテーション理論と方法）を履修しない学生、および他学科の学生を対象とする。〕

精神生理学及び実習 3単位

山 崎 勝 男

精神現象の生理学を実験実習を通して学習する。精神生理学で多用されている脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図などのそれぞれの指標を、実習を通して解説しながら、まずはじめにこれらの生理的な指標の基本的測定法を完全に習得してもらう。次に当方で準備した実験手続書に従って実験実習を各自にしてもらう。半期集中型の授業なので、解説——実験実習——レポート提出のサイクルを数回くりかえすことになろう。レポート提出毎に個人別講評を行う。実験実習が授業の中心をなすので、受講者には積極的な受講態度が要求されよう。実習のメインテーマは、生体リズムの観察、注意、定位反応と慣れの理解を考えている。スポーツ行動の背景をなす「心」と「身体」の接点に興味を持つ受講者を歓迎したい。

音楽理論・実習 2単位

大 池 美智子

講義では、さまざまなジャンルの音楽に目を向け、広い視野からとらえた音楽と、スポーツやダンスとの関係について概説する。

実習では、次のような内容を予定している。

1. リズム・トレーニング
2. 鑑賞によるイメージ・トレーニング
3. レクリエーションのための合唱と合奏
4. やさしい打楽器の奏法と応用法
5. 動きのための「音」えらびと「音」づくり

学校保健Ⅰ 2単位

坂 口 早 苗

学校保健は、保健管理と保健教育に大別される。保健管理は、主に学校保健法にもとづいて行われる管理活動であり、保健教育は主として学校教育法にもとづく教育活動である。

学校保健法と保健教育の概要について講義をしていきたいと思う。

学 校 保 健 II 2 単位

坂 口 早 苗

児童・生徒・学生および幼児に多くみられる疾病異常の各論にふれ、また健康に学校生活を送るための学校環境衛生について講義をしていきたいと思う。

スポーツ工学 I 2 単位

池 原 義 郎

窪 田 登

学校・職場・地域社会などにおけるスポーツの競技あるいはトレーニングのための各種の施設について、競技者と観衆との両方の立場から必要とされる構造や機能を、建築工学的な種々な観点から、実例を参照しながら解説する。

また、スポーツのトレーニングに用いられる機器や、各種の競技に必要なスポーツ用具について、その使用方法や使用効果の問題点を、人間工学的な見地から検討する。

スポーツウェアについても、夫々の競技の種目に必要とされる運動機能性を実現するために、設計・評価において考慮されるべき要素を、身体形態学、材料工学、デザイン工学などの種々な面から分析して説明する。

スポーツ工学 II 2 単位

比 企 静 雄

スポーツという対象に適用される工学的な研究の手法は、応用物理学、機械工学、電気工学、建築学、生体工学、人間工学などの多様な学問分野にわたっているが、このスポーツ工学 II では、計測工学あるいは情報工学の立場から、人間の運動機能に関与する体格・体力や動作の特性を記録して分類・評価するための、多面的な測定について取りあげる。そして、これらの測定に使われる器具・機器・システムの動作原理と操作方法、および、電子計算機の利用による、測定データの統計的な処理の手法や、画像解析や運動のシミュレーションのためのモデル化の手法などについて解説する予定である。

〔スポーツ科学科の専門教育科目の「スポーツ工学 I」の内容と相補うものである。〕

スポーツ方法論・実習（体操）2 単位

〈体操 I・II〉 中 村 茂

体操は身体のいろいろな要素や作用をよりよくするための身体運動、という原理的な意味を含めた目的規定の見地に築かれた身体運動との見解と、同時に他のスポーツや体育運動の基本原理的な身体運動としてとらえ、「スポーツ方法論—体操—」の学習内容を設定してみた。

主として徒手体操を中心とし、その構成や個々の動作を始め、秩序運動、組み体操、集団体操、手具、器機器材を使用した運動などを実習教材として、効率的な動きづくり、身体づくりの学習としたい。

スポーツ方法論・実習（陸上）2 単位

佐々木 秀 幸

陸上競技は生み出された力とスピードを、いかに技術によってコントロールするかにあ

る。このことを主としてバイオメカニックスの分野で解析しながら、実習においてはその科学的知識を応用して競技力の向上を体験する。

これらの実習をとおして、将来スポーツ指導者として活用できるトレーニング法、コーチング法を修得する。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）2単位

〈バレーボール〉 矢 島 忠 明

〈バスケットボール〉 五 三 健

〈バレーボール〉履修者は、スポーツ方法論・実習（バレーボール）2単位を、〈バスケットボール〉履修者はスポーツ方法論・実習（バスケットボール）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習（バレーボール）2単位

矢 島 忠 明

バレーボールは、学校体育の教材ならびに部活の一つとして重要な役割を果たしている。と同時に社会スポーツ、職場スポーツとしても広く愛好されている。さらにまた、国内・外ともに、ポピュラーな競技スポーツとしても目ざましい進展を遂げている。このようにバレーボールが幅広く活用されてきているのは、総合的な体力を高めながら、ボールコントロール、ボディコントロールなどの能力を高めて、チームプレーに還元するコミュニケーションスポーツの役割をも果たしているからである。

本授業では、理論的な裏づけを基に、基本動作及び技術を確実に身につけると同時に、バレーボールの効果的な指導の手順、方法を修得し、加えてルール、審判をはじめとして試合の運営等について学習する。

〔テキスト〕：大泉書店発行の『バレーボール』を使用する。

スポーツ方法論・実習（バスケットボール）2単位

五 三 健

バスケットボールの技術構造を理解しながら、ゲームに必要な基本動作および技術、応用技術を確実に修得することを目指す。

この講座では、集団的技能を中心に展開し、その様相から課題を見付け出すことにより個人的技能の向上を計り、ゲームに連結させて行く。同時に、理論的な裏づけを基に、将来役立つバスケットボールの効果的な指導法をも身につけるようにする。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、学校体育の教材やクラブ活動の一つとして、重要な役割を果たしているバスケットボールの教育的価値、歴史やルール、ゲームの進め方などについても、ビデオを併用して講義をする。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ）2単位

〈ラグビー〉 日比野 弘

〈サッカー〉 加 藤 久

〈ラグビー〉履修者は、スポーツ方法論・実習（ラグビー）2単位を、〈サッカー〉履修

者はスポーツ方法論・実習（サッカー）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習（ラグビー）2単位

〈ラグビー〉 日比野 弘

ラグビーはチームスポーツである。15人のメンバー全員が、ルールと攻防理論を熟知し、自らの役割をまっとうしたときに、勝利の喜びを味わうことができる。

この講座では、ラグビーの専門的知識と、個人の技術水準を高め、あわせて将来役立つ指導法を身につけることを目的とする。

技術の上手、下手にかかわらず、スキルの向上を目指すもの、レフリー、コーチを志望するもの、教員としてラグビー経験を取り入れようとするものなど、ラグビーに関わりを持つ、幅広い層に受講してほしい。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、雨天の際には、ラグビーの歴史、戦術論、ルール解説、ゲーム分析など、ビデオを併用して講義する。

（初回はオリエンテーション。筆記用具持参）

スポーツ方法論・実習（サッカー）2単位

加 藤 久

本授業においては、サッカーを行う上で不可欠な技術、戦術、体力の三つの要素を個々に分析し、その内容、能力の高め方、相互の関連性についての理解を深める。また、それをプレーとして表現できるように実技を行っていく。

さらに、サッカーのルールや試合の進め方、歴史と現状、スポーツの中でのサッカーの位置づけ、サッカーの教育的価値などについての講義も合わせて行う。

スポーツ方法論・実習（格技）2単位

〈柔道〉 小野沢 弘 史

〈剣道〉 安 藤 宏 三

〈柔道〉履修者は、スポーツ方法論・実習（柔道）2単位を、〈剣道〉履修者はスポーツ方法論・実習（剣道）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習（柔道）2単位

小野沢 弘 史

柔術から発展した柔道は、日本民族の生んだ世界に誇るべきスポーツ文化の代表である。

現代スポーツとしての柔道の理論ならび実技を学びながら、柔道の根源を追求してその背景を求め、スポーツとしての意義を考究する。

スポーツ方法論・実習（剣道）2単位

安 藤 宏 三

竹刀を媒体とした打つ、突く、捌く等の対人攻防技能の習得を通して剣道の理解を深める。

男女共に初心者基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるよう指導する。

準備するもの

- 服装：剣道着，袴
- テキスト：安藤宏三著『目で見る剣道上達法』（成美堂出版）
- その他：手拭，名札

スポーツ方法論・実習（ダンス）2単位

山 本 数 子

基礎的な身体の動きからダンスに必要な表現法を体得し，リズム感を養い思想感情を自由に表現出来る身体づくりをし，更に動きと音との関係・構成等を学びながら，ダンス創作法及び各種ダンスを踊ることによって，それぞれのダンスの特性を知り，ダンスに対する視野を広め知識を深める。

- 服装 レオタード，ダンスシューズ

スポーツ方法論・実習（レクリエーション）2単位

〈レクリエーションⅠ〉 角 田 真一郎

多様化する生活，労働時間の短縮，週休2日制の定着による余暇時間の増大，高齢化社会へと進む21世紀の学校・社会・地域・職域で，レクリエーション活動が益々重要な位置を占めてくる。

従ってレクリエーションの意義を生かす為に，主としてニュー・スポーツを取上げ，いかに効果的に領域や各層が，それぞれにおける活動の中で喜びや，楽しみを得られるかについて追求したい。

〈レクリエーションⅡ〉 角 田 真一郎

「レクリエーションⅠ」の学習を基盤として，科学的な学研により，より習熟，充実を計り，グループによって軽スポーツを研究し，指導者としての資質を養う。

必要に応じて，アウト・ドアー・スポーツとしての野外活動も取り上げたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳）2単位

矢 野 正 次

体育・スポーツの指導者として，水中運動の一つである水泳は，欠くことのできない必須の条件と考える。単に泳げることばかりでなく各種泳法にも優れた技能と知識を持たなければならない。

当科目では，水上安全をふまえて水泳を総合的に研究，実習する。将来，学校体育・社会，職場体育の場は勿論その他の分野での実践を期している。

スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳）2単位

矢 野 正 次

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（水泳）の修得者が対象であって，水上安全を中心に発展させていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ウェイトトレーニング）2単位

窪 田 登

ウェイト・トレーニングは、筋力やパワーを強化し、筋を肥大させるトレーニングである。すぐれた筋力やパワーが必要なスポーツ選手にとって、このトレーニングは必須である。

だが、健康志向が高まった今日では、このトレーニングが一般市民の間でも広くとり上げられるようになった。本科目では、ウェイト・トレーニングの基礎的な理論と主としてフリー・ウェイト中心の実技を勉強していきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ウェイトトレーニング）2単位

窪 田 登

本科目では、すでに「スポーツ特論・実習Ⅰ」で基礎的なウェイト・トレーニングの理論と実技を身につけているが、さらにこれに専門的なアプローチを試みる。

理論面では、ウェイトリフティング、パワーリフティング、ボディビルディング、スポーツ選手の補強トレーニングについて、より深い研究を進めていく。また、実技面では、フリー・ウェイトの他にマシンによるトレーニングの実践も深めていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（体操競技）2単位

塚 脇 伸 作

学校体育における器械運動の発展である体操競技について次のような内容の理論と実習を行う。

1. 次の各器械種目に関する個人技能の確認
 - (1) 男子…ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒
 - (2) 女子…跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか
2. 個人技能に応じた技の習得と習熟
3. 演技の発表とその採点

スポーツ特論・実習Ⅱ（体操競技）2単位

塚 脇 伸 作

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に引き続いて、一層の充実をねらい、次のような理論と実習を行う。

1. より発展した技の習得と習熟
2. 指導法の問題点とその対策
3. 器械・器具の問題点とその対策
4. 審判法の問題点とその対策
5. 競技運営の問題点とその対策
6. その他、競技力向上に関する諸問題とその対策

スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技）2単位

佐々木 秀 幸

陸上競技基礎技術の科学的な組み立てを理解し、それを修得して指導法を深めるための

実習である。特に、教育実習及び公立学校採用試験に活用できる内容でもある。

1. 陸上競技トラック、フィールドの中心とする種目。
2. 陸上競技のトレーニング法
3. 児童、生徒の発育発達に応じた動きづくり。

スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技）2単位

佐々木 秀 幸

現在の自己の競技力の向上を志す者、また、将来、中学校、高等学校の教員や社会でのスポーツ指導者として陸上競技の指導、コーチングにたずさわる者のために、陸上競技の高度の専門技術を実習する。

1. 個性による競技力の分析
2. ハイレベルでのトレーニング法とコーチング法

スポーツ特論・実習Ⅰ（ダンス）2単位

山 本 数 子

身体運動における表現の多様性と、リズム・音楽などを総合して創作へと発展させる。

服装 レオタード、ダンスシューズ

スポーツ特論・実習Ⅱ（ダンス）（平成2年度開講科目）2単位

山 本 数 子

「スポーツ特論・実習Ⅰ」を基として更に高度な技術を体得し、創作活動を主としながら、マスゲーム・フォークダンス等にも触れ広くダンスについての技術と知識を深める。

スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道）2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能を高めるとともに、投の形・固の形を修得しトレーニング法、コンディショニングなどの理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道）2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能をより高めるとともに、講道館護身術などの柔道の形を修得し指導法、審判法の理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道）2単位

安 藤 宏 三

本講座では、将来、学校、地域及び各種の団体における剣道の指導者となることを目指す諸君を対象とする。正しい剣道技能の習得と試合・審判規則に関し理解を深めることをねらいとする。

準備するもの

- ・剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）
- ・テキスト：安藤宏三外共著『グラフィック剣道』（大修館出版）

スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道） 2単位

安藤 宏 三

本講座は、「スポーツ特論・実習Ⅰ」（剣道）を履習した者を対象とし、更に高度な技能習得と合わせて、日本剣道形、指導法、審判法、大会の企画や運営の方法等についても学ぶことをねらいとする。

準備するもの

- ・剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）
- ・テキスト：『学校剣道指導の手引き』（文部省）

スポーツ特論・実習Ⅰ（レスリング） 2単位

太田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、FILA（国際アマチュアレスリング連盟）のルールに基づく、フリースタイルと、グレコローマンスタイルの理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（レスリング） 2単位

太田 章

本授業は、レスリング競技を、その技術論及びその体力論などに細分化し、また減量などによる調整をも含めて、応用としての理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング） 2単位

白鳥 金丸

ボクシング本来の有り方を理論と実践で行う。その内訳は、

1. ボクシング概念
2. ボクシング教授法の手順
3. ボクシングの基本動作
4. ボクシング施設、装具、器具の取扱いと安全性について

などである。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ボクシング） 2単位

白鳥 金丸

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（ボクシング）を基本に競技ルールの分析、コンディショニング、ボクシング技術、戦術等を含めた、年間プログラムの作成等を目的とする。

また、ボクシング競技の科学性を考え、体力測定、評価、実験等も併せて行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（野球） 2単位

ニシオオタチノ ヒサシ
西大立目 永

この授業の目的は、「ルールあつてのスポーツ」という厳然たるスポーツ成立条件の根源を踏まえて、野球競技の正しい基礎知識と基本技術習得の手法を多角的に学習することにある。したがって、野球規則書中の「プレイのルール」の学習にも重点を置き、規則と技術の接点を探求することを aussi 試みたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（野球）2単位

ニシオタタシ
西大立目 永

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（野球）で学んだ基礎知識と基本技術を基に、それらを総合的な競技力として、どのように発展させていくのかという学習を行う。

特に、野球はチームスポーツであるという通常の観念を打破し、個人技という観点にも立って、個性尊重の総合競技力を身につける手法を探求しながら実習を重ねてみたい。

さらに、アメリカをはじめとする世界野球界の動向と思想をも論じながら、それらを実習に役立てる方法を模索してみたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ソフトボール）2単位

吉村 正

ソフトボールは、レクリエーション的に楽しむ方法と競技的に行う方法があることを、プレーしながら理解させる。

またこれに加えて、全受講生に対して、ファーストピッチ特有の専門的技術であるウィンドミル投法と左打者の反対打ちを習得させる。

ただし、雨天の場合は、ソフトボールの本質や歴史、あるいは審判法や記録のとり方等を講義する。

〔テキスト〕：吉村正著「ソフトボール教室」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15、ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅱ（ソフトボール）2単位

吉村 正

原則として、全国大会あるいは全国大会に準ずる大会で活躍できる選手を育成する。ただし、選手を志さない学生に対しては、それらの大会で審判員とか記録員といった分野で貢献できる人材を育成する。

合わせて、大衆スポーツの王者であるソフトボールの本質を、スローピッチやミディアムピッチの規則に則ってプレーしながら体得させる。

〔テキスト〕：吉村正著「実戦ソフトボール」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15、ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス）2単位

宮城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては中級程度の実技のレベルアップ、ストローク理論、マナー、ルール、審判法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス）2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては高度な実技の修得と、初心者から中級者までの指導法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス）2単位

林 敏 弘

軽いゴムボールを使用し、ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し、基本技術であるグランドストローク、サービス、ボレー、スマツシュ及びその応用技術、さらには試合における戦法等について、実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス）2単位

林 敏 弘

軽いゴムボールを使用し、ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し、基本技術であるグランドストローク、サービス、ボレー、スマツシュ及びその応用技術、さらには試合における戦法等について、実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）2単位

森 武

まず、理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標としたい。もちろん、目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば、レクリエーション的な地域での指導法、学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法、さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他、ルールと審判法、また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとりあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球）2単位

森 武

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）をまずご参照いただきたい。それら全般的なものの中から、とくに学生諸君の希望（面談の上）する内容を深く学習する授業としたい。たとえば初心者指導を主な目的と考える場合に将来学校クラブの顧問や指導者を目指す～また、日本代表を目指す場合～今後も現役プレーヤーとして続ける～それぞれの目的に合致した内容を組立てていきたい。

なお近年新たに「ラージボール卓球」が文部省や厚生省の催物に採用されている。この面の学習と併せて共に研究の対象にしたいと考えている。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン）2単位

関 一 誠

学校体育・社会体育の場で、初心者を対象とした指導法（導入・展開・応用）を講じ、バドミントン遊びからバドミントン競技まで各段階による実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン）2単位

関 一 誠

「特論・実習Ⅰ」を踏まえて、競技バドミントン技能の向上、策戦・戦法のたて方等、競技の特性を生かした方法論・実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バレーボール）2単位

古 市 英

競技スポーツとしてのバレーボールと、レクリエーションスポーツとしてのバレーボールの違いを基調として、個人技能、及び集団技能を習得することを目標とする。

コ・エド (co-ed) スポーツとしての位置づけについても考えていきたい。

実技だけでなく、文献学習や視聴覚教材の利点を生かした授業をもくろんでいる。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バレーボール）2単位

古 市 英

競技スポーツの観点からバレーボールをとらえ、好成績を収めるための方策を、実技と理論、及び試合を通して追求する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バスケットボール）2単位

伊 藤 順 蔵

バスケットボールの基礎技術として、ボールハンドリング（パス、ドリブル、ショット、リバウンド）・からだを扱う技術・ディフェンスの技術修得

基礎的プレーとして、1対1の攻防・2対2の攻防・3人の連けいプレーと防御・アウトナンバーの攻防の技術修得と、バスケットボール指導法の研究について学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バスケットボール）2単位

伊 藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、チームディフェンスとチームオフェンスの完成を目標とする。実技は、マンツーマンディフェンスとその攻撃法・ゾーンディフェンスとその攻撃法、プレスディフェンスとその攻撃法・速攻とその防御法を修得する。

あわせて、審判法、技術の段階に応じた指導法・スカウティング・作戦計画などについて学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー）2単位

日比野 弘

ラグビーの歴史、攻防理論、集団スキル、戦術、ルールなどを専門的に研究する。

各人の競技者として、又は指導者としての力を向上させることを目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー）2単位

日比野 弘

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、ラグビーのコーチング、レフリング、トレーニングなどの知識を更に深く研究する。スポーツ指導者として社会に貢献できる人材の養成を目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（サッカー）2単位

加 藤 久

技術・戦術・体力というサッカーに不可欠な三つの要素のうち、特に技術に関しての解説と実習を行なう。

運動学習理論をふまえながら、サッカーの技術が、どのような一般性と特殊性を持つものであるかを明らかにし、ゲームを通じてその技術の体得を目指す。

また、サッカーの歴史と現状、サッカーのルールやゲームの進め方についても言及する。

スポーツ特論・実習Ⅱ（サッカー）2単位

加 藤 久

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の理解のもとに、サッカーの技術と戦術のつながり、技術を個人戦術・グループ戦術・チーム戦術にどう生かしていくかを解説・実習する。

また、サッカーの体力とはどういうものか、体力トレーニングの方法にはどのようなものがあるかについても論じる。

最後に、総説としてサッカーのコーチングのあり方、指導者の役割について言及する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スキー）2単位

佐 藤 千 春

スキー技術、およびスキー技術に関するいろいろな運動、運動感覚、筋肉感覚、心理的なことまで、科学的に研究することが、この特論の主目的である。しかし、スキー技術と言っても、余りにも幅広い内容をもつ。そこで、とりあえず、基礎的なものをよく絞ってこの特論の内容としたい。もう少し具体的に言うならば、全日本スキー連盟の提唱している基礎スキー部門、そして、準指導員検定において、そのライセンスをクリアすることなど、興味深いテーマになり得るものと考えている。教職を希望するものに対しても、有効なテーマであると思う。雪のない季節には、スキー技術に対するトレーニング理論とその実習、および指導についての考え方、指導法などについて、授業のなかに組み込んで考えていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スキー）2単位

佐 藤 千 春

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に解説したように、スキー技術、およびスキーに関するいろいろな運動を、スポーツ科学という領域において研究することを目的として、この特論・実習Ⅱの授業を進めていきたい。そのためには、いろいろの創意工夫をしていかなければならないだろう。視野を広くもって考えていきたい。「特論・実習Ⅰ、Ⅱ」とともに、それぞれ分立したものではなく、もとより一つのものを便宜的に二つに分けて実習するに過ぎない。このことも明記しておきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スケート）2単位

伊 藤 順 蔵

基礎技術として、フォアスケートイング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケートイング、ストップ・ターンをマスターするとともに、スピードスケー

ティンギ、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の初歩の技術修得

あわせて、スケートの歴史、スケートの手入れ法などスケートの知識を学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スケート）2単位

伊 藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、スピードスケーティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の技術研修に励むとともに、バッジテストなどに挑戦する。

あわせて、競技の見方、カリキュラムなどの指導計画のたて方、指導法・評価法などを学ぶ。

ス ポ ー ツ 史 2単位

寒 川 恒 夫

スポーツ・体育の起源から今日に至る発展史を、未開社会、古代、中世、近世、近代、現代、にわけて講義する。テキストには、岸野雄三（編著）『体育史講義 1984年』（大修館）を使用する。

比較スポーツ論 2単位

古 市 英

共産圏諸国（ソ連・中国・東ドイツ等）のスポーツについて、その成立過程（歴史）、思想、組織、社会の中での評価等に関して考えることによって、自由圏諸国（日米英韓等）のそれとの相違点、類似点を描き出し、比較研究する。

教科書は、『共産主義国のスポーツ』を使用する予定であるが、詳細については、授業開始時に指示する。

コーチング論 2単位

(A) 塚 脇 伸 作

(B) 日比野 弘

スポーツにおけるコーチングの基礎理論とその応用について、Aでは個人的スポーツを、Bでは集団的スポーツを対象にして、具体例をあげながら解説する。

主に次のような内容を取りあげる予定である。

1. コーチングシステム
2. 体力と技術の相互関係
3. 指導者に必要な観察力
4. トレーニング計画とトレーニング管理
5. 勝敗を決定する要因
6. その他、競技力向上のためのコーチングの諸問題

体育測定法・演習 2単位

永田 晟
前田 勝也
葛西 順一

本講座は、スポーツ科学の体育学指導者が具備すべく各種の基本的な測定法の習得と解説をおこなう。さらにデータの処理、整理、統計の方法を教授し、レポートや卒業論文のまとめ方を体得する。そのために少人数による実験・実習をおこない、実際にデータのまとめをおこなう。

永田が、体育に必要とする統計学を全般的に講義する。そして生体と運動時の筋電図・心電図・心拍数・呼吸循環系機能を含む基礎的な運動生理学のテクニックを教え、各自で演習し、スポーツ科学の基礎を習得する。

前田が、高速度カメラ、アイ・カメラ、VTR・写真等による動作分析法やキネシオロジーの基本的な技得を実習させる。実際のスポーツのキネマテックスや photography の分析法を講義・演習する。

葛西は、身体の構造と機能および体力テスト等を含む体育測定学を中心に分担し、各種の体力テストや運動能力テストに習熟させる。そして体力の診断と評価が可能な技術を詳講する。

3人担当者のセクションの授業を6～7週・連続的に同時に併行する。そしてローテーションをおこない、年間において全員が3つのセクションをすべて演習する。

〔統計学の教科書〕：『体育の測定・評価』（第一法規）

武道概論 2単位

志々田 文明

今日、武道という言葉は、一般に柔道や剣道など日本古来の運動文化ないしは運動技術を表わす総合名称として用いられているが、このような用法は明治時代の末以降のことである。江戸時代には武道は武士道ないしは士道と同意語に使われていた。この講義では、武道を考察する際の原点としてそれら用法の変遷をふまえて武道の精神性（倫理道德的あるいは求道的）及び技術性などの文化的特色をみていく。それらの特色から、現代行なわれている武道を考え、今後のあり方に考究したい。

〔教科書〕：中林信二著『武道のすすめ』

ダンス概論 2単位

山本 数子

舞踊の歴史を通して技術と表現。形式と内容及び構造。舞踊と音楽との関連、各種ダンスについての知識を深める。

教科書は使用しません。

原書講読演習Ⅰ 2単位

梅澤 宣雄

主として、北米及び英国のスポーツ経営学に関する文献を取り上げ、講読する。

原書講読演習Ⅰ 2単位

村岡 功

本演習ではスポーツ生理学あるいは運動生理学に関する専門書を輪読しながら授業を進める。

従って、この授業では単なる語学的な理解にとどまらず、スポーツおよび運動を生理学的側面から捉え、スポーツ科学に対する理解を深めていただきたい。

原書講読演習Ⅰ 2単位

宮内 孝知

本演習は、スポーツの社会的な理解を、英文を通して身につけることをねらいとする。

しかしながら、現在のところ、Sport Sociology ないしは Social Aspects of Sport そのものを論じた著作はみられないようである。そのようなタイトルであるとしても、多くは「論文集」である。従って、本演習では、それらの論文集の中から、上記のねらいに合った論文を選び、精読しながら理解を深めていくことになる。

原書講読演習Ⅰ 2単位

濱野 吉生

この演習は、英米の原書講読を通じて、近代スポーツがいつ頃、誰によって担われ、どのように発展してきたか、またその本質・原理は何か、を理解することを目的として進めていく。

テキストについては、授業中に指示する。

原書講読演習Ⅱ 2単位

児玉 昌久

スポーツ科学の領域における種々の心理学的問題特に mental management あるいは self control に関する文献を読む。必ずしも専門性の高い文献を読む事を目的としている訳ではなく、スポーツ科学に興味を持つ者やスポーツを実践する者に共通する問題を扱った一般的なテキストを用いるが、行動・学習理論の理解や専門語の知識があれば、内容の理解や技術の習得・応用に有効である。そのための基礎知識を得るには、ヘップ著「行動学入門」(紀伊国屋書店)、八木晃監「現代基礎心理学」(全12巻、東大出版)、本吉良治編「学習」(講座心理学第6巻、東大出版)などを随時利用するとよい。

テキストの内容に対応して、受講生自身の mental management の実践も併せて行っ

原書講読演習Ⅱ 2単位

寒川 恒夫

スポーツ人類学をテーマとした原書講読をおこなう。本年度は東南アジアのエスニック・スポーツをとりあげ、伝統的社会におけるスポーツの文化的意味について考える。テキストはそのつど指示される。

原書講読演習Ⅱ 2単位

比 企 静 雄

この原書講読演習ではまず、スポーツ科学を構成する人文科学・社会科学・自然科学の各学問分野を概観した上で、英文の国際的な学術書や学会雑誌などから解説や研究論文を選んで講読し、それを通して、主として自然科学の側面からスポーツ科学の研究の手法を把握することを目的としている。

原書講読演習Ⅱ 2単位

古 市 英

政治体制の違いが、それぞれの国のスポーツを違った形に浮きぼりしている。換言すれば、政治が、スポーツに大きな影響力を及ぼしている今日、スポーツの本質は何か、あるいは、時代の変化に伴ってスポーツは、どう分類されたらよいのか、を考えながら、特定国の体育・スポーツについて探究する。

政治体制の異なる特定二国間の体育やスポーツを比較することによって、両者の特長を把握し、将来の姿を探る。

専門教育科目（各学科共通 選択）

哲学的人間学Ⅰ 2単位

北村 實

「人間」は生物の一種であるが、しかし他の生物とは質的に異なる特質を持っている。「人類学」が動物学の一分科として人間を研究していくのに対して、それだけではとらえきれない「人間」の特質を総合的に考察していくのが「哲学的人間学」である。講義では、広い視点から「人間」を見つめ直し、「人間」とは何か、という古くて新しい問への私なりの答えを出してみたい。

哲学的人間学Ⅱ 2単位

北村 實

「人間」についての哲学的考察はほとんどすべての哲学に含まれているが、しかしそれが「哲学的人間学」と銘打たれて登場したのは1920年代のドイツにおいてであった。それは M. Scheler, Plessner から始まって、Gehlen, Landmann に受け継がれていったとされているが、講義では、この「哲学的人間学」の検討を行う。

言語・記号論 2単位

遠藤 弘

言語に関する、あるいは記号一般に関する学際的な研究は今日ますます盛んになりつつある。それというのも、「人間は記号である。」と解することの可能性が一層現実的なものとなってきたからである。本講は哲学的な視座から記号現象一般の人間的な意味を説明するとともに、とりわけ言語の本質に探りを入れることを目的とする。基本的な資料をプリントにして配布し、できるだけ日常的な事例に沿って話を進めて行くことにする。

民族文化論 2単位

吉村 作治

民族には独自の文化が存在しているが、その文化は必ずしも独特なものだけではなく、他の民族との交流によってお互いに影響し合っている。本講座は、まず民族とは何かを、歴史的に検証し、部族・人種・民族の相関関係を考えた後、具体的に各民族を映像や図像で考証していく予定。その際民族間の文化を比較することにより、失なわれてしまった風俗や風習を見い出すこともした。又アラブ民族とユダヤ民族のようにその確執が歴史的に深いケースではその原因を単に政治的なものだけに留めず文化史的な面からも再考察したいと考えている。

認知理論 2単位

西本 武彦

認知については、心理学の極めてコンテンポラリーな分野として近年注目を浴びている。ともすると抽象的で難解と思われがちであるが、本講ではできるだけ具体的事例や簡単な実験をまじえ、知覚・学習・記憶・思考・言語といった各分野を統一的に説明する枠組みとしての認知的アプローチの今日的意義を紹介していきたい。テキストについては講義の中で指示する。出席厳守。

人格心理学 2単位

富田 正利

人格 (Personality) とは人間を個人として総合的に捉える概念であり、気質、性格、知能といった個人のすべての特性を包括する概念である。その研究は近代心理学の成立の遙か以前から関心を持たれてきたし、現代に於ても心理学の究極の目標として追求する研究者も多い。本講ではそうした研究の歴史を振り返り、近代心理学における人格研究の多様な展開の跡をたどり、現代における諸理論を概観して、人格研究のあり方を探りたい。

教育心理学I 2単位

佐々木 正人

「こども」、「教師」、「学校」といった教育の場を構成している諸要素の有機的な結びつきとして教育を捉え直してみたい。こどもの社会史、認識の発達理論、教育の認知人類学などの成果から、教えること、学ぶことの本来の姿について議論したい。

運動心理学 2単位

児玉 昌久

新しい運動を覚えたり、すでに覚えている運動の技術を高めようとする時、多くの要因がある原則に従って作用しあう。それら種々の要因や法則のうち心理学的な問題をとりあげて解明し応用してゆくのが運動心理学の目的である。運動技術獲得のメカニズムや法則性、技術向上を促進したり妨害する心理的要因や動機の問題、獲得した技術の十分な発揮を援けたり妨げたりするメンタル諸問題についての基礎的な面を述べる。

社会心理学 2単位

斉藤 勇

社会心理学の基礎的知識と基本的考え方について、講義する。講義内容は次の通りであるが、社会心理学の実験的アプローチを中心に紹介していく。

- ・社会的認知
- ・社会的態度
- ・社会的欲求
- ・社会的行動
- ・グループ・ダイナミックス

保健社会学 2単位

佐久間 淳

まず現代社会における生活の特徴にふれ、それらと健康、疾病（成人病など）との関係の説明する。ついで日本の医療社会史から、医療サービスの特徴にふれる。一方、日本人の健康や疾病に対する意識や行動について文化人類学、行動科学、統計的手法を用いた保健・医療社会学の解析・把握法を説明する。

内容は、健康増進、疾病に対する個人、集団の機能など専門的なものであるが、具体的に身近な問題をわかりやすく講義するので、受講者は新たな視界が広がるであろう。

たとえば、東京都と大阪府の傷病別有病率の違いや死因別死亡率、さらには平均寿命の差の原因などに切りこむ。また、地域別自殺率とその社会的背景、死因や死亡率の地域比較分析など、自分の置かれている社会的状況への新しい視点からの分析法を習得したい。

〔テキスト〕：佐久間淳著『医療社会学概説』（大修館）1988

人間工学 I 2単位

石田 敏郎

人間工学の基本的な考え方と、人間工学を理解するために必要な基礎的事実について、具体的な実験例をもとに概説する。

また、人間工学は学際的な学問であり、最近の進歩も著しいので、そうした話題にもふれる。

脳神経科学 2単位

濱 清

脳神経科学概論

- ① 興奮の伝導および伝達と神経細胞の構造
- ② 神経細胞レベル、中枢レベルにおける情報処理の構造的基礎の概説を行う。

〔参考書〕：

Principle of Neural Science, Kandel and Schwartz, Elsevier Co.

From Neuron to Brain, Kuffler and Nicholls, Sinauer Co.

精神医学 I 2単位

中村 陸郎

精神医学は、精神面の異常を呈する疾患、即ち精神障害（精神的疾患）を対象とする医学の重要な一分科である。本講義では、精神医学の歴史、精神医学における諸分野と、諸理論、精神症状にはどのようなものがあるか、精神症状と脳の機能との関連性、各種の代表的な精神障害（概念、成因、症状、経過、治療など）、我が国の精神科医療の現状と問題点などについて講述を行う。

精神医学 II 2単位

濱田 秀伯

狂気の歴史をたどることは、人間の歴史をたどることにほかならない。本講座では過去

から現代に至る精神医学の流れを概観し、人間が心の病とどのようにかかわってきたのかを述べる。特に精神障害の理解に不可欠な用語の解説、症候学、分類学に重点をおきながら、今日知られている精神疾患の原因、治療、医療上の諸問題などにふれ、精神医学全般にわたって偏りのない視点を提供することを目的としている。

精神衛生概論 2単位

山 崎 勝 男

精神衛生とは、「心の健康」の維持と向上、および「心の不健康」の治療と予防に関する複合科学である。現代社会のどの側面を取り上げても、人間の心に大きな影響を及ぼさないものはない。しかしながら、同じ状況にあり同じ影響を受けても、心身ともに元気な人と、種々の精神身体症状を示す人がいる。これらの背景に潜む人格、態度の差異を視野に入れながら、ここでは現代人に多く見られる心身症（ストレス病）や神経症などを中心テーマに選び、具体的な症例を基にして発症のメカニズムを考察することにより、逆にその防止策を各自が探り出し、いかにして「心の健康」を維持し向上させるかを考えてみる。講義の内容は精神医学や心身医学よりも、心理学的色彩の濃いものとしたい。

精神身体医学Ⅰ 2単位

濱 田 秀 伯

精神は身体の基盤に生じ、身体は精神のあり方を反映する。本講座では、変質論、大脳局在論、精神分析学、現象学、器質力動論など精神と身体の相関にかかわる考え方、理論の流れを概観する。特に19世紀ヨーロッパに始まる近代精神医学が、機械・還元論的な自然科学の思潮に対抗し、人間を不可分な全体としてとらえる見地から発展した過程を、生物学、心理学、社会学、哲学などとの関連において論じる。本講座は精神医学ⅠないしⅡに続くものであり、受講者は原則として精神障害の一応の知識を有することが望ましい。

栄養学Ⅰ 2単位

太 田 富貴雄

体格も良く、健やかで体力にも恵まれた活動的な一生を送ることは、多くの人の願いであろう。体格を造る材料を提供し、生命維持に不可欠な生理作用の調整を行い、活動のためのエネルギーを供給するのが食物である。栄養学は食物と発育・健康・疾病との関係を究め、健康増進に役立つ食生活の指針をつくることを目的としている。本講義では、人間が必要とする食物成分（栄養素）の種類と生理的役割、至適摂取量、各種食品の栄養的特徴など栄養学の基本的事項について述べる。また、体力増強や健康水準の向上を図るための食生活のあり方についても言及する。

スポーツ医学Ⅰ 2単位

福 林 徹

スポーツ障害、外傷の中でも外科的疾患を中心に部位別・競技別に事例を提出しながら紹介し、その救急処置・治療法について述べる。またスポーツの安全対策・障害予防という面から、スポーツ復帰にあたっての運動処方や、テーピングの方法、物理療法について

言及したい。

スポーツ医学Ⅱ 2単位

福 林 徹

スポーツ医学Ⅰに続き、スポーツ障害の中でも循環器系を中心とした内科的疾患を中心に、その治療と予防法について解説する。また最近注目をあびているメディカルチェックの方法とその意義、さらには食事療法、栄養指導、ドーピングと薬物療法などについても言及し、実例を提示しながらその具体的方法について述べる。

救急処置法 2単位

安 達 正 夫

医療がより高度に専門化されてきた今日、危急状態にある人を速やかに大病院の救急救命部や集中治療室に移送することは、その人の Life Support を考えた場合極めて重要であることは論を待たない。特に移送するまでの初期に、人工呼吸や心マッサージといった救急処置法を、躊躇なく確実に行うことは大切なことであり、誰もが実践できることが望ましい。救急処置法の理論を述べると共に、実際の症例を呈示しながら、どのように救急処置法を応用するか述べたい。

物 療 医 学 2単位

松 澤 大 樹

この講義では、放射線技術の医学への応用をとりあげ、前半では、人体に対する放射線の影響について系統的に解説し、後半では、生きている人の脳の画像解析の手法によって得られた最新の知見を紹介する。

人体に対する放射線の影響を実験的に詳細に調べることは困難であるため、マウスなどの哺乳動物に対する影響に範囲を広げる。順序として、細胞、その細胞の秩序立った集団である組織、さらに組織の統一的集団である個体に対する影響について述べる。

近年における各種のコンピュータ利用による画像解析装置〔陽電子（ポジトロン）断層装置、磁気共鳴映像装置など〕の開発の成功は、被検者に何ら苦痛を与えずに、脳の詳細な形態的および機能的画像を作ることが可能にした。ここではとくに痴呆を対象としたこれらの画像を示しつつ、脳の高次機能について述べる。痴呆のことをラテン語で dementia = de（失調）+ mentia（精神または“こころ”）というように、痴呆を明らかにすることは、まさに“こころ”の解明につながるからである。

労働衛生概論 2単位

中 原 英 臣

一口に労働衛生といっても、近年日本の産業構造の激的な変化とともに大きく変っている。

古くは炭鉱での塵肺症、林業での白ろう病、印刷業での鉛中毒等の職業病があり、今日では職場でのストレスやワープロでの視力障害等が問題となっている。また最近では半導体、新素材、バイオテクノロジーといったハイテクノロジーの現場での健康管理も大きな

問題となりつつある。こうした歴史的背景をふまえて広い視野に立った講義を行いたい。

看護法 2単位

安達 正夫

看護法とは、従来、病気の治療にたずさわる側にある医師や看護婦が、病気に悩まされている人に、安心して気持ち良く医療が受けられるよう指導し、病人の抱えている悩みや要求を少しでも軽減させ、かつ満足させる為に生まれてきたといっても過言ではない。しかし、多くの人達が様々なストレスを受けながら社会生活を送っている今日、器質的な疾病を抱えている病人はもとより、機能的に失調をきたしている人々にも、看護の手が必要になっているのではないだろうか。その意味からも、近代医学の一端を担っている看護学の理論と実践について講義をすすめたい。

運動処方論 2単位

永田 晟

トレーニングと運動処方の違いを明確にして、それらの基礎的な生理科学と資料を提示する。そして人間改造の可能性を探り、健康と体力の保持増進の道標や指標を具体化する。そのやり方を現場のフィットネスクラブを見学しながら実習する。

運動処方上、必須な①運動内容(種類) ②運動頻度 ③運動強度の理論を教示し、個人のレベルに対応した個別的な処方箋作りの方法論を展開する。特に、一般人の健康体力のための処方が組み立てられ、“健康・体力相談士”や“健康運動指導上”、“運動プログラマー”としての能力が得られるように詳講し配慮する。別に各事業所の健康・体力相談室を体験入学する予定である。

〔教科書〕：『健康・体力づくりハンドブック』(大修館)

地域体育論 2単位

濱野 吉生

地域社会における体育・スポーツの進め方、その法的根拠、歴史と現状などについて、諸外国の例も交えながら述べていくが、なおその他にスポーツそのものについても、かなりのウェイトを置いて言及する予定である。

参考書等については、授業中に指示する。

職場体育論 2単位

前田 勝也

職場体育といっても、一般にはあまり聞きなれない言葉かもしれない。総括的に考えれば、レクリエーションということになるだろうが、ここでは、仕事を持つ人々の職場における状況を、人間に加わる負担という形でとらえ、それらからの人間への影響、さらにその影響に対応する意味でのレクリエーションの問題について考察を進める。

役付教職員一覧

学 部 長	浅 井 邦 二
教 務 主 任 (教務担当)	濱 口 晴 彦
教 務 主 任 (学生担当)	濱 野 吉 生
教 務 副 主 任 (教務担当)	山 崎 勝 男
教 務 副 主 任 (学生担当)	蔵 持 不三也
人間基礎科学科主任	大 島 康 行
人間健康科学科主任	相 馬 一 郎
スポーツ科学科主任	上 田 雅 夫
事 務 長	坂 田 孝 昭
図 書 課 長	遠 藤 雅 司

1990年度 クラス担任者一覧

第 1 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	吉 村 作 治	11	白 井 恒 夫
2	寒 川 恒 夫	12	鈴 木 晶 夫
3	三 枝 幸 夫	13	志々田 文 明
4	上 田 雅 夫	14	石 田 敏 郎
5	神 崎 巖	15	山 内 兄 人
6	堀 田 郷 弘	16	根 建 金 男
7	坂 野 雄 二	17	永 田 晟
8	濱 野 吉 生	18	比 企 静 雄
9	宮 内 孝 知	19	青 柳 肇
10	谷 川 章 雄	20	佐々木 正 人

第 2 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	浅 井 邦 二	19	小 泉 英 二
2	矢 野 敬 生	20	木 村 利 人
3	大 島 康 行	21	宮 崎 正 己
4	濱 口 晴 彦	22	相 馬 一 郎
5	春 木 豊	23	児 玉 昌 久
6	山 内 兄 人	24	山 崎 勝 男
7	吉 岡 亨	25	村 岡 功
8	池 岡 義 孝	26	寒 川 恒 夫
9	蔵 持 不三也	27	宮 内 孝 知
10	岡 野 静 二	28	町 田 和 彦
11	門 前 進	29	比 企 静 雄
12	吉 村 正	30	梅 澤 宣 雄
13	佐 古 順 彦	31	濱 野 吉 生
14	店 田 廣 文	32	鈴 木 秀 次
15	石 田 敏 郎	33	太 田 富貴雄
16	野 呂 影 勇	34	塚 脇 伸 作
17	菅 野 純	35	永 田 晟
18	野 嶋 栄一郎	36	古 市 英

第 3 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	嵯峨座 晴 夫	19	黒 田 勲
2	柿 崎 京 一	20	小 泉 英 二
3	矢 野 敬 生	21	野 嶋 栄一郎
4	木 村 一 郎	22	坂 野 雄 二
5	飯 野 徹 雄	23	宮 崎 正 己
6	佐々木 正 人	24	相 馬 一 郎
7	根 建 金 男	25	児 玉 昌 久
8	鈴 木 晶 夫	26	山 崎 勝 男
9	青 柳 肇	27	村 岡 功
10	濱 清	28	寒 川 恒 夫
11	蔵 持 不三也	29	宮 内 孝 知
12	岡 野 静 二	30	町 田 和 彦
13	門 前 進	31	比 企 静 雄
14	吉 村 正	32	梅 澤 宣 雄
15	山 本 多喜司	33	濱 野 吉 生
16	店 田 廣 文	34	鈴 木 秀 次
17	石 田 敏 郎	35	太 田 富貴雄
18	野 呂 影 勇	36	塚 脇 伸 作

第 4 学 年

卒業論文指導教員がクラス担任にあたる。

教 員 一 覧

専任教員（五十音順）

氏 名	主な担当科目
青 柳 肇	演習Ⅱ（達成動機）
浅 井 邦 二	心理学概論
飯 野 徹 雄	遺伝学及び実習
池 岡 義 孝	家族社会学及び実習
石 田 敏 郎	情報処理（コンピュータ基礎・実習）
伊 藤 順 蔵	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バスケットボール）
上 田 雅 夫	スポーツ心理学
白 井 恒 夫	都市社会学及び実習
梅 澤 宣 雄	スポーツ経営学Ⅰ，Ⅱ
大 島 康 行	生態系科学
太 田 章	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（レスリング）
太 田 富貴雄	栄養学Ⅰ，Ⅱ
岡 野 静 二	福祉援助論
柿 崎 京 一	地域社会学及び実習
葛 西 順 一	体育測定法・演習
加 藤 清 忠	身体形態学（解剖学を含む）
加 藤 久	スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ サッカー）
神 崎 巖	独語
菅 野 純	学校カウンセリング
木 村 一 郎	細胞学及び実習
木 村 利 人	バイオエシックス（自然・生命・人間の秩序）
窪 田 登	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ウエイトトレーニング）
蔵 持 不三也	比較文化論
黒 田 勲	行動医学Ⅰ，Ⅱ
小 泉 英 二	演習Ⅰ（学校カウンセリングの基礎）
児 玉 昌 久	運動心理学
三 枝 幸 夫	英語
坂 野 雄 二	行動療法Ⅰ，Ⅱ
嵯峨座 晴 夫	社会変動論

佐古順彦
 佐々木秀幸
 佐々木正人
 佐藤千春
 重原淳郎
 志々田文明
 鈴木秀次
 鈴木晶夫
 寒川恒夫
 相馬一郎
 田中純蔵
 店田廣文
 谷川章雄
 チャールズ・W・ゲイ
 塚脇伸作
 中村桂子
 永田晟
 根建金男
 野嶋栄一郎
 野呂影勇
 濱清彦
 濱口晴彦
 濱野吉生
 春木豊
 比企静雄
 古市英
 堀田郷弘
 町田和彦
 宮内孝知
 宮崎正己
 村岡功進
 門前進生
 矢野敬人
 山内兄人
 山崎勝男
 山本多喜司

環境心理学Ⅱ
 スポーツ特論・実習Ⅰ, Ⅱ (陸上競技)
 認知発達理論
 スポーツ特論・実習Ⅰ, Ⅱ (スキー)
 独語
 武道概論
 バイオメカニクスⅠ
 非言語行動論
 スポーツ文化論
 環境心理学Ⅰ
 英語
 社会開発論
 日本文化史
 英語
 スポーツ特論・実習Ⅰ, Ⅱ (体操競技)
 生命科学論
 バイオメカニクスⅡ
 行動理論
 教育心理学Ⅱ
 人間工学Ⅱ
 脳神経科学及び実習
 社会学理論史
 地域体育論
 行動学
 リハビリテーション
 比較スポーツ論
 仏語
 公衆衛生学Ⅰ, Ⅱ
 スポーツ社会学
 運動・保健概論
 運動生理学
 心理療法Ⅰ, Ⅱ
 社会集団論
 比較形態学
 精神生理学及び実習
 演習Ⅱ (発達と環境)

吉岡 亨	生理学及び実習
吉村 作治	比較文明論
吉村 正	レクリエーション論

兼 担 教 員 (五十音順)

氏 名	本属箇所	担当科目
東 清 和	教 育 学 部	人間発達心理学
安 藤 宏 三	体 育 局	スポーツ方法論・実習 (格技) 剣道 スポーツ特論・実習Ⅰ (剣道) スポーツ特論・実習Ⅱ (剣道)
池 原 義 郎	理 工 学 部	スポーツ工学Ⅰ
石 垣 春 夫	教 育 学 部	基礎数学
岩 本 憲 児	文 学 部	映像論
宇佐美 昭 次	理 工 学 部	化学
牛 山 積	法 学 部	人間の諸問題
遠 藤 弘	文 学 部	言語・記号論
大 沢 慶 己	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ (柔道) スポーツ特論・実習Ⅱ (柔道)
岡 田 浩 平	教 育 学 部	独語Ⅰ・Ⅱ
奥 島 孝 康	法 学 部	法学
長 田 攻 一	文 学 部	余暇論
小 野 正 和	法 学 部	英語Ⅱ
小野沢 弘 史	体 育 局	スポーツ方法論・実習 (格技) 柔道
角 山 元 保	教 育 学 部	仏語Ⅰ・Ⅱ
北 村 實	文 学 部	社会意識論 哲学的人間学Ⅰ・Ⅱ
桜 井 英 博	教 育 学 部	化学
佐 藤 巖	教 育 学 部	独語Ⅰ・Ⅱ
澤 村 灌	法 学 部	英語Ⅱ
清 水 茂	文 学 部	仏語Ⅰ・Ⅱ
白 鳥 金 丸	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ (ボクシング) スポーツ特論・実習Ⅱ (ボクシング)
新 保 昇 一	文 学 部	英語Ⅰ・Ⅱ
鈴 木 慎 一	教 育 学 部	教育学
鈴 木 英 雄	理 工 学 部	物理学
関 一 誠	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ (バドミントン) スポーツ特論・実習Ⅱ (バドミントン)

千葉 明 夫	理 工 学 部	物理学
角 田 真一郎	体 育 局	スポーツ方法論・実習（レクリエーション）
外 木 典 夫	文 学 部	特論Ⅱ
富 田 正 利	文 学 部	心理検査法Ⅰ 心理検査法Ⅱ 人格心理学
富 永 厚	文 学 部	倫理学
中 村 茂	体 育 局	スポーツ方法論・実習（体操）体操Ⅰ
西大立目 永	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ（野球） スポーツ特論・実習Ⅱ（野球） 保健体育科目実技（軟式野球）
西 本 武 彦	文 学 部	認知理論
野 中 涼	文 学 部	英語Ⅱ
野 村 圭 介	商 学 部	仏語Ⅰ
橋 本 仁 司	教 育 学 部	組織心理学
速 川 治 郎	社 会 学 部	哲学
林 敏 弘	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス） スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス）
日比野 弘	体 育 局	スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ）ラグビー スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー） スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー） 保健体育科目実技（ラグビー）
前 田 勝 也	体 育 局	体育測定法・演習 職場体育論 保健体育科目講義（体育と生活）
宮 城 淳	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス） スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス） 保健体育科目実技（テニス）
森 武	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球） スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球）
森 祐 子	文 学 部	独語Ⅰ・Ⅱ
矢 島 忠 明	体 育 局	スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）バレーボール
矢 野 正 次	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳） スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳） 保健体育科目実技（水泳）

非常勤教員（五十音順）

氏 名	担当科目
青 木 清	バイオエニックス 比較行動学
安 達 正 夫	救急処置法 看護法
安 藤 喜久雄	人間関係論Ⅰ 産業・職業社会学

安 中 隆 徳
 五 三 健
 今 橋 盛 勝
 内 嶋 善兵衛
 大 池 美智子
 近 江 源太郎
 小 野 魁
 金沢ジャニック
 菊 地 弘
 北 原 隆
 小 出 二郎
 児 玉 幹 夫
 斉 藤 勇
 坂 口 早 苗
 佐久間 淳
 高 橋 鷹 志
 千 石 保
 中 条 一 雄
 中 原 英 臣
 中 村 昌 子
 中 村 陸 郎
 野 池 恵 子
 服 部 明 彦
 濱 田 秀 伯
 ビーター・
 カスタグナロ
 ビーター・
 ボラー
 深 川 長 郎
 福 林 徹
 フィリップ・
 ヴァネ
 保 志 宏
 牧 幸 一
 前 田 豊

宗教学
 スポーツ方法論・実習(球技Ⅰ)バスケットボール
 教育法
 環境論
 音楽理論・実習
 環境論
 特論Ⅰ
 仏語Ⅱ
 文学
 自然人類学
 英語Ⅰ・Ⅱ
 社会福祉論Ⅰ
 人間関係論Ⅱ
 社会心理学
 学校保健Ⅰ
 学校保健Ⅱ
 保健社会学
 環境論
 社会調査
 社会調査・実習
 スポーツ情報論
 労働衛生概論
 独語Ⅰ・Ⅱ
 精神身体医学Ⅱ
 精神医学Ⅰ
 仏語Ⅰ・Ⅱ
 環境論
 精神医学Ⅱ・精神身体医学Ⅰ(ストレスと生体反応)
 英語Ⅰ
 英語Ⅰ
 スポーツ行政論
 スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ
 仏語Ⅱ
 人類学
 独語Ⅱ
 英語Ⅰ・Ⅱ

松 澤 大 樹
松 本 芳 之
宮 本 美沙子
室 岡 博
矢 崎 正 夫

山 本 数 子

ルイス・
リーバイ

ロジャー・N・
ジェフリーズ

ロバート・
グレイ

物療医学
組織心理学
動機づけ理論

英語Ⅱ

英語Ⅱ

スポーツ方法論・実習 (ダンス)
スポーツ特論・実習Ⅰ (ダンス)
スポーツ特論・実習Ⅱ (ダンス)
ダンス概論

英語Ⅰ

英語Ⅰ

英語Ⅰ

建 物 ・ 号 館 案 内

100 号 館	8 階	研究室（一般教育・外国語・助手）
	7 階	研究室（スポーツ科学科）
	6 階	研究室（人間健康科学科） 人間総合研究センター所長室 実験室（人間健康科学科・人間総合研究センター） 会議室
	5 階	研究室（人間基礎科学科・スポーツ科学科・助手） 会議室 実験室（人間基礎科学科・人間健康科学科・スポーツ科学科） 学生実習室 面接室 観察室 暗室 測定機室
	4 階	学部事務所 学部長室 教務主任・副主任室 会議室 所沢図書館・事務室 保健室 教職員食堂 研究室（スポーツ科学科） 実験室（スポーツ科学科） 学生実習室
	3 階	演習室 埋蔵文化財展示室・整理室 学生ラウンジ 学生共同利用室 コピー室 学生食堂 売店 情科センター分室事務室 端末室 労務員・清掃員室
	2 階	60人教室 350人教室 700人教室 演習室 視聴覚教室 LL教室
	1 階	60人教室 140人教室 200人教室 学生ラウンジ  エレベーター
		守 衛 室

早稲田大学所沢構内案内図



